

付 属 資 料

1. 調査関係資料

目 次

1. 要綱	96
2. 調査の手引き	98
3. ご協力をお願い	121
4. 独身者票	122
5. 夫婦票	134

2015 年社会保障・人口問題基本調査

『結婚と出産に関する全国調査』要綱

第 15 回出生動向基本調査

【調査目的】

国立社会保障・人口問題研究所は、戦前の 1940（昭和 15）年に夫婦の出生力の実態を明らかにするため、初めて出産力調査を実施した。戦後は 1952（昭和 27）年に第 2 回調査を行って以降、5 年毎に「出産力調査」という名称で定期的実施し、1950 年代の夫婦出生児数の急速な減少や 1970 年代半ばからの出生率低下について、その実態と要因を明らかにしてきた（第 10 回調査からは名称を「出生動向基本調査」と変更）。1982（昭和 57）年に実施された第 8 回調査からは、少子化の進行にともなって結婚動向把握の重要性が増したことから、夫婦調査に加えて独身者の結婚観・家族観などを調べる独身者調査を実施してきている。これら長年にわたる継続調査の結果として、戦後のわが国における出生動向の実態とその要因ならびに背景が明らかにされてきており、その社会的、学術的意義は高く評価されている。とりわけ、現在進行している少子化過程については、当初の晩婚化や近年の夫婦の子どもの産み方の変化など、出生力低下の要因変化をいち早く捉え、その背後にある生活状況や意識変化の姿とともに描き出しており、関連施策や見通しの策定に欠くことのできない資料となっている。

2015（平成 27）年に実施する第 15 回調査においては、大きく変化しつつある結婚ならびに夫婦の子どもの産み方の動向を見極めるとともに、その関連要因と変化メカニズムを究明することが目的である。夫婦調査においては、結婚過程と夫婦出生力の変化進展の実態が把握される。独身者調査では独身者の置かれた生活状況とともに、今後の結婚・出生行動に関わる結婚意欲・家族意識などが把握される。この調査によって新たな世代の結婚・出生行動、意識を詳細かつ正確に把握することは、関連諸施策の立案・策定に必要であるとともに、今後の日本社会を大きく左右する人口減少と人口高齢化の行方を定量的に描き出す上で欠くことができない。

【調査の対象および客体】

この調査は、全国に居住する妻の年齢 50 歳未満の夫婦と 18 歳以上 50 歳未満の独身の男女を母集団とする標本調査である。

調査客体は、2015（平成 27）年度に実施される国民生活基礎調査の調査地

区から無作為抽出された 900 調査地区内に居住する妻の年齢 50 歳未満の夫婦(約 7,800 組、回答者は妻)と 18 歳以上 50 歳未満の独身の男女(約 12,700 人)である。

【調査期日】

2015（平成 27）年 6 月 25 日

（ただし、2015（平成 27）年 6 月 1 日現在の事実による）

【おもな調査事項】

「夫婦調査」

- 1) 夫婦（および両親）の人口学的・社会経済的属性
- 2) 夫婦の結婚過程に関する事項
- 3) 夫婦の妊娠・出産・避妊・不妊に関する事項
- 4) 妻の就業と出産・子育てに関する事項
- 5) 保育環境・保育資源に関する事項
- 6) 妻の結婚・子ども・家族に関する意識

「独身者調査」

- 1) 独身者（および両親）の人口学的・社会経済的属性
- 2) 結婚への意欲・態度およびその背景に関する事項
- 3) 異性関係・パートナーシップに関する事項
- 4) ライフコースに対する考え方
- 5) 結婚・子ども・家族に関する意識

【調査の方法】

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所が厚生労働省大臣官房統計情報部、都道府県（または政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区）および保健所の協力を得て実施する。記入・回収は、配票自計・密封回収方式によって行う。

【調査結果の集計および公表】

国立社会保障・人口問題研究所が行い、2016（平成 28）年 6 月頃に結果概要を公表予定。

2015年社会保障・人口問題基本調査

結婚と出産に関する全国調査 ＜第15回出生動向基本調査＞

調査の手引き

調査に関する質問の連絡先

厚生労働省
国立社会保障・人口問題研究所

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3
日比谷国際ビル 6 階
電 話 (03) 3595-2984 内線 4474/4471

ま え が き

このたび、厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所の「第15回出生動向基本調査－結婚と出産に関する全国調査－」の実施にあたり、皆さまには、調査員としてご協力いただくことになりました。

本調査の結果は、わが国の少子化や家族変容の現状を捉えるとともに、これからの日本社会のあり方や施策を考える上で、かけがえのない資料となるものです。

調査の環境が厳しくなる中、皆さまには多くのご苦勞をおかけすることになりますが、一票一票がよりよい社会を築く礎となることを思い、私たちと共にご尽力をいただければ幸いに存じます。

お忙しい中たいへん恐縮に存じますが、皆さまのご協力を、切にお願い申し上げます。

平成27年 6月

厚生労働省

国立社会保障・人口問題研究所長

森 田 朗

I 調査の概要

1. 調査の目的

出生動向基本調査（旧称、出産力調査）は、初回を戦前の1940（昭和15）年に行い、戦後はほぼ5年おきに実施をしてきました。今年は第15回目に当たります。近年わが国では、家族のあり方や個人の生き方の変化を背景に、出生率が大幅な低下を示し、「少子化」として社会的問題となっていることは周知のとおりです。こうした傾向が今後も続けば、人口減少や人口高齢化が著しく促進されるなど、わが国の社会、経済への影響は測り知れないものがあります。

国立社会保障・人口問題研究所では、かねてよりこうした出生力変動の要因と背景を解明する努力を続けてまいりました。なかでも出生動向基本調査は、日本の人々の結婚の過程ならびに夫婦の子どもの生み方、育て方などに関する科学的データをもたらすものであり、とくに夫婦出生力については、全国的動向と背景を把握するわが国で唯一の調査であることから、その実施には最大限の努力を傾けております。

今回の調査では、これまでの調査から明らかとなった夫婦の子どもの生み方の変化について観察を続けるとともに、その変化の原因を解明したり、あるいは結婚をしていない若者たちの結婚や家族に対する考え方や社会関係の実態について詳細に把握したりすることを目的としています。

調査結果は統計の形で報告書や研究資料としてまとめられ、政府において施策立案等の基礎データとして用いられるほか、自治体等においても同様の目的で活用されます。さらに、本調査から算出された各種の指標は、当研究所が定期的に公表している公的な将来推計人口（全国、地域）および世帯数将来推計（全国、地域）に不可欠のデータとして用いられており、それらの推計は、政府における厚生労働行政をはじめとした広範な分野において重要な役割を果たしております。

以上のように、たいへん重要な役割を担っている調査ですので、できるだけ正確な回答と高い回答率が得られますよう、以下の要領に従って調査の実施にご尽力いただければ幸いに存じます。

2. 調査の対象および客体

この調査は全国の

- (1) 妻の年齢 50 歳未満（満 49 歳以下）の夫婦
- (2) 18 歳以上 50 歳未満（満 49 歳以下）の独身男女

を対象とし、平成 27 年国民生活基礎調査地区内より無作為に抽出した 900 調査地区内の(1)および(2)の該当者すべてを調査客体とします。

3. 調査の期日

調査の期日は平成 27 年 6 月 25 日です。

ただし調査内容については、平成 27 年 6 月 1 日現在の事実を調査します。

4. 調査票の種類

- (1) 「結婚されている方への調査票（黄色）」
……………妻の年齢 50 歳未満（満 49 歳以下）の夫婦用
- (2) 「独身の方への調査票（緑色）」
……………18 歳以上 50 歳未満（満 49 歳以下）の独身男女用

5. 調査の方法

調査員の方から、調査対象者に調査票を配布していただきます。調査票の記入は調査対象者ご自身にしていただきます。記入済みの調査票は、対象者ご自身が所定の封筒に入れて密封します。調査員の方は、記入済み調査票の入った密封封筒を回収します。

II 調査実施の手順と注意

調査の実施にあたっては次のような手順と注意に従ってください。

保健所をお願いする準備作業

- ① あらかじめ都道府県から国民生活基礎調査の「単位区別世帯名簿」および「単位区要図」の写しを受け取ってください。
- ② 国民生活基礎調査の「単位区別世帯名簿」の写しから、国民生活基礎調査においてすでに記入済みの(1)世帯番号、(2)世帯主氏名、(3)世帯員数の欄を切り取り、第15回出生動向基本調査の「単位区別世帯名簿」の(1)世帯番号、(2)世帯主氏名、(3)世帯員数の欄に、そのまま貼りつけてください（転記してもかまいません）。調査地区(単位区)の世帯数が35世帯を超える場合は「単位区別世帯名簿」が複数必要になります。貼り付け（または転記）後、右上にある「（ ）枚のうち（ ）枚目」の欄も記入してください。
- ③ 上記②で作成された第15回出生動向基本調査の「単位区別世帯名簿」および「単位区要図」の写しを調査員に渡してください。

※なお、国民生活基礎調査の所得票があたっている単位区については、調査対象者の負担軽減のため、『第15回出生動向基本調査』は実施しませんのでご注意ください。従って該当する単位区の単位区別世帯名簿も作成する必要はありません。

調査員の方をお願いする作業

1. 調査票配布前の準備

(1) 保健所から手渡される書類の確認

- 1) 「調査員委嘱状」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 枚
- 2) 「調査員証」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 枚
- 3) 「調査要綱」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 部
- 4) 「調査の手引き」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 部
- 5) 「単位区別世帯名簿」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 単位区につき 1 部
- 6) 「単位区要図」の写し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 単位区につき 1 部
- 7) 「ご協力をお願い」・・・・・・・・・・・・・・ ご担当地区における対象者総数に応じた部数

- 8)「調査票(結婚されている方への調査票)」(黄色)…………… 同上
- 9)「調査票(独身の方への調査票)」(緑色)…………… 同上
- 10)「回収用封筒(結婚されている方への調査票)」(黄色)…………… 同上
- 11)「回収用封筒(独身の方への調査票)」(緑色)…………… 同上
- 12)「連絡メモ(不在世帯用)」……………ご担当地区における対象世帯数に応じた部数
- 13)「連絡メモ用封筒(不在世帯用)」…………… 同上
- 14)「調査対象者への謝礼品」……………ご担当地区における対象者総数に応じた個数

(2)書類への所定事項の記入

- ①保健所から受け取った2種類の調査票の表紙、およびそれぞれの密封用の封筒の所定欄に、「都道府県名」「保健所名」「地域コード」(「地区番号」+「単位区番号」+「世帯番号」)を記入してください。
- ②「ご協力をお願い」「連絡メモ」「連絡メモ用封筒」の所定欄(お問い合わせ先)に保健所名と連絡先が記入されているか確認し、未記入の場合は記入してください。
- ③「単位区別世帯名簿」の1ページ目にある「地区番号・単位区番号」「調査地」「保健所名」「調査員氏名」に必要事項を記入してください。

2. 調査票配布の実施手順

(1) 調査票配布時に携行すべき書類

- 1)「調査員証」…………… 調査対象者に保健所の調査員であることを証明するため(1枚)
- 2)「調査の手引き」…………… 調査の方法や注意点を説明したもの(1部)
- 3)「単位区別世帯名簿」…………… この調査のために作成したもの(1部)
- 4)「単位区要図」の写し…………… 調査区の地理案内(1部)
- 5)「ご協力をお願い」…………… 調査対象者数に応じた部数
- 6)所定事項記入済みの「結婚されている方への調査票」…………… 同上
- 7)所定事項記入済みの「独身の方への調査票」…………… 同上
- 8)所定事項記入済みの「回収用封筒(結婚されている方への調査票)」…………… 同上
- 9)所定事項記入済みの「回収用封筒(独身の方への調査票)」…………… 同上
- 10)「連絡メモ(不在世帯用)」…………… 対象世帯数に応じた部数
- 11)「連絡メモ用封筒(不在世帯用)」…………… 同上
- 12)「調査対象者への謝礼品」…………… 対象者数に応じた個数

(2) 調査対象者の確認

この調査は、妻の年齢50歳未満（満49歳以下）の夫婦（結婚されている方への調査票）と18歳以上50歳未満（満49歳以下）の独身男女（独身の方への調査票）を対象としています。従って、各世帯にこれらの対象者がいるかどうかを確認し、対象者がいる場合には、夫婦が何組いるか、独身者が何人いるかを確認してください。

この調査で対象となるのは、夫婦、独身者それぞれについて、次のA、Bの両方を満たす方々です。

【夫婦】

- A. 6月1日時点で夫婦である（結婚している状態である）と調査対象者自らが認めている場合（婚姻の届け出の有無や訪問時の同別居の如何にかかわらず）
- B. 6月1日時点で妻の年齢が50歳未満（満49歳以下）であった場合（夫の年齢の如何にかかわらず）

【独身者】

- A. 6月1日時点で独身（離別、死別を含む）であると調査対象者自らが認めている場合（婚姻の届け出の有無や訪問時の同別居の如何にかかわらず）
- B. 6月1日時点で18歳以上（18歳を含む）50歳未満（満49歳以下）である場合

※この調査では、調査対象者の国籍は問いません。対象者が日本人でない場合も配布してください。ただし、日本語でのやり取りに困難があり、調査票を配布できなかった場合は、単位区別世帯名簿の備考欄に「言語」と記入してください。

(3) 対象者の「単位区別世帯名簿」への記入

上記(2)で確認された調査対象者を「単位区別世帯名簿」の(4)、(5)の所定欄（夫婦組数、独身者数）に記入してください（次ページの＜記入例1＞を参照）。対象者がいない場合は、必ず0（ゼロ）を記入してください。備考欄への記入は、必要に応じて、夫婦・独身者それぞれについて行ってください。14ページには備考欄記入例一覧が掲載されていますのでご確認ください。

< 記入例 1 >

地区番号	1	3	0	0	9	単 位 区 号	0	1	(1)枚のうち(1)枚目
------	---	---	---	---	---	---------	---	---	------------------

(1) 世帯 番号	(2) 世帯主氏名	(3) 世 帯 員 数 (人)	(4)妻が50歳未満の夫婦			(5)18～50歳未満の独身者		
			夫婦 組数	夫 婦 票 配布数 回収数	備 考	独身 者数	独 身 者 票 配布数 回収数	備 考
01	河田 一郎	4	0	0		1	1	
02	春日 武雄	5	1	1		1	0	調査重複
03	柳町 四朗	3	1	0	拒否(病気)	1	1	
04	神楽 実	3	転出の場合、世帯番号・世帯主名・世帯員数に二重線を引き、配布数にゼロ、備考欄に転出と記入してください。			1	1	
05	四谷 美奈子	1				0	0	
06	目黒 清	7				2	2	
07	三田 洋子	2	—	—	— 転出	—	—	— 転出
08	神保 正	4	1	0	拒否	2	0	拒否
09	田中 昌平	1	0	0		0	0	
10	坂上 浩志	4	1	1		2	2	
11	ジョン・テラー	3	1	0	言語	1	0	言語
12	岡本 雅俊		修正箇所は二重線を記入してください。			0	0	
13	伊藤 ひろみ					1	1	
14	石田 博行	6 5	1	1	世帯主変更(石田隆)	2	2	
15	山田 秀樹	4	1	0	夫のみ	0	0	
16	宮本 孝敏	5	1	1		2	2	
17	藤崎 雄一	2	0	0		0	0	
18	梁瀬 則和	2	0	0		0	0	
19	加藤 慶子	1	0	0	長期不在	0	0	長期不在
20	西田 京子	3		0	転入	1	1	転入
21			何度訪問しても不在であるなど、世帯員数を確認できなかった場合は斜線を入れ、備考欄に「長期不在」と記入してください。					
22								
23								
24	点線部分は、国民生活基礎調査の単位別世帯名簿から貼りつけた部分です。世帯番号20番は、新たに転入した世帯なので、書き加えています。							
25								
26								
			⋮	⋮	⋮			

合計	世帯数 ()世帯							
----	-----------	--	--	--	--	--	--	--

(4) 「お願い」「調査票」「回収用封筒」「謝礼品」の配布

8～10ページの「調査票の配布・回収時の注意事項」を必ずご確認ください。

- ① この調査の対象者のいる世帯に「ご協力をお願い」を対象者の人数分配布して調査の説明を行い、調査に協力していただくようお願いしてください。それと同時に、この調査の対象となる夫婦には「結婚されている方への調

査票」を、独身者には「独身の方への調査票」を、それぞれ「回収用封筒」「謝礼品」といっしょに人数配布してください。

② 配布後、「単位区別世帯名簿」の「配布数」欄に記入してください（前ページの＜記入例 1＞をご参照ください）。なお、配布できなかった場合は、配布数 0（ゼロ）とし、「備考」欄に配布不能の理由（不在、回答拒否、夫のみ等）を記入してください。

訪問世帯に配布するもの（例）

A. 1 世帯に調査対象者が 1 組もしくは 1 人いる場合

例) 1 世帯に夫婦が 1 組

「結婚されている方への調査票」(黄色)

「回収用封筒(結婚されている方への調査票)」(黄色)

「ご協力お願い」

「調査対象者への謝礼品」

各 1 部ずつ配布(1 世帯分)

例) 1 世帯に独身者が 1 人

「独身の方への調査票」(緑色)

「回収用封筒(独身の方への調査票)」(緑色)

「ご協力お願い」

「調査対象者への謝礼品」

各 1 部ずつ配布(1 世帯分)

B. 1 世帯に調査対象者が複数いる場合

例) 1 世帯に夫婦が 1 組(もしくは 1 組以上)と独身者が 1 人(もしくは 2 人以上)

「結婚されている方への調査票」(黄色)

「回収用封筒(結婚されている方への調査票)」(黄色)

「ご協力お願い」

各 1 部ずつ組数分だけ配布

「独身の方への調査票」(緑色)

「回収用封筒(独身の方への調査票)」(緑色)

「ご協力お願い」

各 1 部ずつ人数分だけ配布

「調査対象者への謝礼品」

対象者の人数分(=配布した調査票数分)配布

1 世帯分

(5) 回収予定日と回収方法の確認

調査票の回収予定日を調査対象者に知らせ、調査対象者の都合がつかない場合には回収方法を打ち合わせていただくようお願いいたします。記入の終わった調査票は必ず所定の回収用封筒に入れ、密封した状態で、回収時に手

渡すよう調査対象者の方にお願いしてください。

(6) 調査票の回収

回収予定日に再び調査対象世帯を訪ねて調査票を回収してください。

無作為抽出調査は小さな標本規模に基づいて全国の動向を把握しようとするものですから、回収率の高さが決め手になります。一度で回収できなかった場合は、もう一度足をお運びいただくなど、できるだけ回収率を高めるようご協力をお願いいたします。

3. 調査票の配布・回収時の注意事項

調査対象者が『21世紀出生児縦断調査』あるいは『21世紀成年者縦断調査』と重複している場合

本調査の調査対象者が、厚生労働省が2001年からおこなっている調査『21世紀出生児縦断調査』あるいは『21世紀成年者縦断調査』の調査対象者であるとおっしゃる場合には、『第15回出生動向基本調査』の調査票を配布しないようお願いいたします。（調査対象者の方の負担を軽減するための処置です。）さらに、上記の理由により本調査の調査票を配布しない場合には、「単位区別世帯名簿」の「備考」欄に“調査重複”と記入してください。

夫婦のうち妻または夫のみ居住している場合

夫婦であると自己申告されているケースで、調査全期間にわたって夫不在で妻のみが対象世帯に住んでいる場合は、結婚されている方への調査票を配布してください。逆に、調査全期間にわたって妻不在で夫のみが対象世帯に住んでおり、妻本人が調査票に回答できない場合は、単位区別世帯名簿の備考欄に「夫のみ」と記入し、調査票は配布しなくて結構です。

質問の意味や回答の仕方等で、調査員の方が対処できない質問があった場合

具体的な質問内容をお聞きいただき、調査員の方から直接、あるいは各自自治体の担当者の方を通じて国立社会保障・人口問題研究所までご連絡いただくようお願いいたします（調査対象者ご本人から直接研究所宛てにご連絡いただいてもかまいません）。

調査拒否や特定の質問に答えたくないとおっしゃる調査対象者の方がいる場合

まず、この調査の趣旨、回答の取り扱いについて、調査員の方から十分ご説明ください。

本来、すべての質問項目について答えていただくのが理想ですが、「答えたくない質問がある」という方には、答えられる一部の質問項目だけでも回答していただくようご説明ください。（18ページの「応接の例」もご参照ください。）

プライバシーの保護について

回答者のプライバシーを保護するため、調査対象者には調査票記入後、ご本人で調査票を所定の回収用封筒に入れ密封するよう依頼してください。（回収された封筒は、密封のまま直接、国立社会保障・人口問題研究所へ送られ、途中で開封されることは決してありません。また、ご記入いただいた内容は同研究所において、すべて統計的に処理され、調査結果の公表は統計数字の形をとりますので、一人一人の回答が他に漏れることは一切ありません。）

また、回答者のプライバシー保護に対する心情に配慮し、「都道府県名」「保健所名」「地域コード」以外の個人を特定するような情報（対象者の名前や住所等）は、調査票・回収用封筒に記入しないようお願いいたします。

不在世帯への対応

調査票配布時に不在の世帯があった場合、「連絡メモ」を用いたり、訪問時間帯を変えたりして再訪問し、世帯の人に直接会って調査するようにしてください。「連絡メモ」には、再訪問予定日時のほか、世帯の人に伝えておきたい事柄などのメモを書き添えるようにしてください。

調査票回収時に不在の場合、「連絡メモ」に再訪問予定日時を書き添えるなどして、再訪問してください。

なお、「連絡メモ」は、個人情報保護のため、「連絡メモ用封筒」に入れてポスト等に残すようにしてください。

オートロックマンションがあった場合の対応

「オートロックマンション」とは、建物の出入り口のドアが、その建物の居住者しか開けることができないようになっている共同住宅をいいます。調査区内にオートロックマンションがあった場合には、以下の対応を参考にしてください。

(1) 事前の準備

まず、管理人の有無を確認します。管理人と会えた場合は、調査の趣旨などを説明し、各居住者に調査にうかがうことを伝えた上で、各戸に「ご協力をお願い」を配布します。

管理人をおいていない場合は、マンションの管理組合の代表者や管理会社へ、調査にうかがうことを伝えたいうえで、各戸に「ご協力をお願い」を配布します。

建物の出入口（共用玄関）には、居住者と通話するためのインターホンがあり、使い方が示されていますから、それを見て、通話の仕方を確認しておきます。

(2) 調査票の配布と回収

あらかじめ確認しておいたインターホンの使い方に従って、世帯の人と連絡をとった上で、共用玄関をあけてもらい、中に入って居住者を訪問します。

マンション内の複数の世帯を訪問するわけですが、オートロックマンションにおける一般的なマナーに従い、訪問する各居住者には共用玄関からインターホンで連絡をとるようにしてください。

(2) 単位区全体の実施状況の記入

最後に「単位区別世帯名簿」の回収数の合計を確認し、次ページの＜記入例 3＞を参照の上、「単位区別世帯名簿」1 ページ目の所定欄に単位区全体の回収状況を記入してください。

その際、名簿に記した回収数と、実際に回収した密封用封筒の数が一致するかどうかを点検してください。

なお、同一単位区内に36世帯以上が居住していたり、転入により記入欄が増えたりして単位区別世帯名簿が複数枚ある場合は、左上をホッチキスで留めてまとめてください。

※調査票の回答状況および回答内容を点検していただく必要はありません。
回収用封筒は開封しないようお願いいたします。

5. 調査終了後

- (1) 「単位区別世帯名簿」、「単位区要図」の写し、および回収した封筒入りの「調査票」は、そのまま一括して保健所に提出してください。
- (2) 「単位区別世帯名簿」と密封用封筒に入れられた「調査票」は各保健所からいったん都道府県（政令指定都市・特別区）に集められ、各都道府県（政令指定都市・特別区）から国立社会保障・人口問題研究所宛てにご送付いただくことになっております。
- (3) 調査に使用した国民生活基礎調査の「単位区別世帯名簿」および「単位区要図」の写しは、調査終了後、保健所においてすみやかに裁断焼却により処分してください。

< 記入例 3 >

2015 年社会保障・人口問題基本調査
結婚と出産に関する全国調査(第 15 回出生動向基本調査)
単位区別世帯名簿

◎黒のボールペンで記入してください。

地区番号	1	3	0	0	9	単位区番号	0	1
------	---	---	---	---	---	-------	---	---

東 京 都道府県 市郡 千代田 区町村

内幸町2丁目

保 健 所 名 千代田保健所 調査員氏名 佐藤和子

注：

- 1 「(1)、(2)、(3)」欄は、「平成 27 年国民生活基礎調査」の「単位区別世帯名簿」から記入済みの内容を複写して貼り付けること。
- 2 「(3)」欄は、調査日現在の世帯員数となること。国民生活基礎調査時の世帯員数と異なる場合は二重線を引いて修正し、世帯員数を確認できなかった場合は斜線を記入すること。
- 3 「(4)」欄の夫婦組数、「(5)」欄の独身者数は、その世帯に該当者がいない場合、必ず「0(ゼロ)」を記入すること。
- 4 「(4)」「(5)」のそれぞれの備考欄には、配布・回収時の状況に関して、必要に応じて記入すること（「調査の手引き」14 ページの備考欄記入例一覧を参照）。

<単位区全体の実施状況> ※この単位区のすべての調査票を回収した後に記入

第 15 回出生動向基本調査		
	夫婦票	独身者票
調査対象世帯数	(19) 世帯	
調査対象夫婦組数／独身者数	(10) 組	(17) 人
調査票配布数	(6) 枚	(13) 枚
調査票回収数	(6) 枚	(12) 枚

Ⅲ 参考資料

参考表 1 単位区別世帯名簿 備考欄記入例一覧

用語	内容
転出	国民生活基礎調査実施後、引っ越し等により、該当住居に居住実態がなくなった場合
転入	国民生活基礎調査実施後、引っ越し等により、新たに居住実態が生じた場合
世帯主変更	国民生活基礎調査実施後、世帯主が変わった場合
不在	当該住居への居住実態はあるが、調査期間中に一度も面会することができなかった場合
長期不在	長期出張や施設への入所などによって、当該住居を 3 か月以上不在にしているため、面会できなかった場合
夫のみ	調査期間中、夫婦票の対象者の妻が不在で、夫のみが当該住居に居住しており、妻本人が調査票に回答できない場合
拒否	世帯員に面会することができたものの、調査協力を得ることができず、調査票を配布または回収できなかった場合
拒否（病気）	世帯員に面会することができたものの、病気を理由に調査協力を得ることができず、調査票を配布できなかった場合
言語	世帯員に面会することができたものの、日本語でのやり取りに困難があり、調査票を配布できなかった場合
調査重複	本調査の調査対象者が、『21 世紀出生児縦断調査』または『21 世紀成年者縦断調査』の調査対象者である場合（8 ページ参照）

※上記以外の理由で名簿に記載のない世帯があったり、配布・回収が不可能だった場合は、備考欄にその状況をなるべく具体的に記入してください。

参考表 2 学校の分類

1. 中学校（※小学校もここに含めます。）

- ・ 中学校
- ・ 小学校
- ・ 中等教育学校の前期課程
- ・ 国民学校の初等科・高等科
- ・ 尋常小学校
- ・ 高等小学校
- ・ 中卒後専修学校や専門学校に行っているが、卒業年齢が 18 歳未満あるいは卒業年齢不詳
- ・ 特別支援学校（盲学校・ろう学校・養護学校）の小学部・初等部・中学部
- ・ 通信講習所普通科
- ・ 青年学校普通科
- ・ 実業補習学校
- ・ 高校中退

2. 高校（※共学か別学かは回答者ご本人の判断に任せてください。）

- ・ 新制の高等学校
- ・ 中等教育学校の後期課程
- ・ 特別支援学校（盲学校・ろう学校・養護学校）の高等部
- ・ 通信制・定時制高校
- ・ 准看護師（婦）養成所
- ・ 旧制の中学校・高等女学校・実業学校
- ・ 青年学校本科
- ・ 陸海軍工員養成所
- ・ 師範学校予科または師範学校一部（3 年修了のもの）
- ・ 鉄道教習所中等部・普通部（昭和 24 年までの卒業者）
- ・ あんまマッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律による指定の学校又は養成施設（4 新中卒を入学資格とする修業年限 4 年のもの）
- ・ 通信講習所高等科
- ・ 陸軍幼年学校
- ・ 海軍甲種・乙種飛行予科練習生
- ・ 保育士（保母）養成所（旧制中卒を入学資格とする修業年限 2 年以上のもの）
- ・ 専検（専門学校入学者検定試験）・実検（実業学校卒業程度検定試験）・高検（高等学校高等科入学資格試験）・大検（大学入学資格検定）・高認（高等学校卒業程度認定試験）合格者
- ・ 専修学校高等課程・各種学校（中卒を入学資格とする修業年限 3 年以上のもの）
- ・ 海員学校・海上技術学校
- ・ 大学中退

3. 専修・専門学校（高卒後）

- ・ 専修学校（高卒を入学資格とする専門課程）
- ・ 専門学校・各種学校（高卒を入学資格とする修業年限 2 年以上のもの）
- ・ 看護師（婦）養成所・看護学校・看護専門学校
- ・ 保健師（婦）養成学校
- ・ あんまマッサージ指圧師・はり師・きゅう師等に関する法律による指定の学校又は養成施設（新高卒を入学資格とする修業年限 2 年以上のもの）
- ・ 助産師（婦）養成所
- ・ 保育士（保母）養成所（新制高卒を入学資格とする修業年限 2 年以上のもの）
- ・ 都道府県立農業講習所・農業大学校
- ・ 歯科技工士学校

4. 短大・高専

- ・ 短期大学
- ・ 高等専門学校（新制）
- ・ 旧制の高等学校・大学予科・専門学校・高等師範学校
- ・ 師範学校本科
- ・ 高等通信講習所本科
- ・ 陸軍士官学校
- ・ 海軍兵学校
- ・ 水産講習所本科（昭和 27 年までの卒業者）
- ・ 短期大学の夜間課程・通信課程
- ・ 青年学校教員養成所
- ・ 図書館職員養成所
- ・ 職業能力開発大学校（専門課程）
- ・ 職業能力開発短期大学校

5. 大学（※共学か女子大学かは回答者ご本人の判断に任せてください。）

- ・大学
- ・水産大学校
- ・防衛大学校
- ・防衛医科大学校
- ・海上保安大学校本科
- ・航空大学校(昭和45年までの卒業者と平成元年11月からの卒業生・現在在学中の者)
- ・気象大学校
- ・職業能力開発総合大学校
- ・職業能力開発大学校(応用課程)
- ・国立看護大学校
- ・放送大学(全科履修生のみ)
- ・国立工業教員養成所
- ・専門学校・各種学校(大卒後)
- ・海外の大学への留学
- ・大学専攻科
- ・大学の夜間課程・夜間部・通信課程

6. 大学院

- ・大学院(修士課程、博士課程)
- ・法科大学院
- ・ビジネススクール(経営学修士(MBA)・博士(DBA)の取得を目的としたもの)

参考表3 おつとめの状況の概要

おつとめの状況の区分	概 要
1. 正規の職員	会社・団体・官公庁・個人商店などに、雇用期間の定めなく雇われている人。
2. パート・アルバイト	会社・団体・官公庁・個人商店などに雇われている者のうち、勤め先で「パート」または「アルバイト」と呼ばれている人。
3. 派遣・嘱託・契約社員	会社・団体・官公庁・個人商店などに雇われている人のうち、勤め先に直接雇用されておらず、人材派遣会社から給与を受けて派遣先に役務を提供している人(派遣社員)や、嘱託社員として勤め先と契約している人(嘱託社員)、また、専門的職種に従事することを目的に契約に基づき雇用され、雇用期間に定めのある人(契約社員)。
4. 自営業主・家族従業者・内職	個人経営の商店主・工場主・農業主などの事業主や、開業医・弁護士・著述家・行商従業者(自営業主)、農家や個人商店などで、農仕事や店の仕事などを手伝っている家族(家族従業者)、委託を受けて在宅で仕事を行い、収入を得ている人(内職)。在宅ワーカー、SOHOなど個人事業主、販売目的の物品・サービスを在宅で自主製作している人もこのカテゴリーに含みます。
5. 無職・家事	収入をとまなう仕事をもっていない人。
6. 学生	学校や通信教育課程に在籍している人で、ふだん通学がおもな人。

参考表 4 年号早見表

満年齢	十二支	年号	西暦	満年齢	十二支	年号	西暦	満年齢	十二支	年号	西暦
100歳	卯	大正4年	1915年	66歳	丑	昭和24年	1949年	31歳	子	昭和59年	1984年
99	辰	5	1916	65	寅	25	1950	30	丑	60	1985
98	巳	6	1917	64	卯	26	1951	29	寅	61	1986
97	午	7	1918	63	辰	27	1952	28	卯	62	1987
96	未	8	1919	62	巳	28	1953	27	辰	63	1988
95	申	9	1920	61	午	29	1954	26	巳	64	1989
94	酉	10	1921	60	未	30	1955			平成元年	
93	戌	11	1922	59	申	31	1956	25	午	2	1990
92	亥	12	1923	58	酉	32	1957	24	未	3	1991
91	子	13	1924	57	戌	33	1958	23	申	4	1992
90	丑	14	1925	56	亥	34	1959	22	酉	5	1993
89	寅	15	1926	55	子	35	1960	21	戌	6	1994
		昭和元年		54	丑	36	1961	20	亥	7	1995
88	卯	2	1927	53	寅	37	1962	19	子	8	1996
87	辰	3	1928	52	卯	38	1963	18	丑	9	1997
86	巳	4	1929	51	辰	39	1964	17	寅	10	1998
85	午	5	1930	50	巳	40	1965	16	卯	11	1999
84	未	6	1931	49	午	41	1966	15	辰	12	2000
83	申	7	1932	48	未	42	1967	14	巳	13	2001
82	酉	8	1933	47	申	43	1968	13	午	14	2002
81	戌	9	1934	46	酉	44	1969	12	未	15	2003
80	亥	10	1935	45	戌	45	1970	11	申	16	2004
79	子	11	1936	44	亥	46	1971	10	酉	17	2005
78	丑	12	1937	43	子	47	1972	9	戌	18	2006
77	寅	13	1938	42	丑	48	1973	8	亥	19	2007
76	卯	14	1939	41	寅	49	1974	7	子	20	2008
75	辰	15	1940	40	卯	50	1975	6	丑	21	2009
74	巳	16	1941	39	辰	51	1976	5	寅	22	2010
73	午	17	1942	38	巳	52	1977	4	卯	23	2011
72	未	18	1943	37	午	53	1978	3	辰	24	2012
71	申	19	1944	36	未	54	1979	2	巳	25	2013
70	酉	20	1945	35	申	55	1980	1	午	26	2014
69	戌	21	1946	34	酉	56	1981	0	未	27	2015
68	亥	22	1947	33	戌	57	1982				
67	子	23	1948	32	亥	58	1983				

※満年齢は、当該年に生まれた人が、今年(平成 27(2015)年)の誕生日を迎えたときの年齢です。

※十二支は、子(ね)、丑(うし)、寅(とら)、卯(う)、辰(たつ)、巳(み)、午(うま)、未(ひつじ)、申(さる)、酉(とり)、戌(いぬ)、亥(い)です。

参考表 5 質問があった場合の応接の例

忙しい（面倒な）ので、調査票を書いている暇はない

- * お忙しいところおそれいます。
- * 調査票への記入方法は該当する番号に○をつけていただくものが多く、見かけよりも簡単で時間もそれほどかかりませんので、よろしくご協力をお願いいたします。
- * 記入していただいて、どうしても分からないところがありましたら、調査票の回収に伺ったときに、その場で質問していただいても結構です。

調査票が課税の資料に使われるのではないか

- * そのようなことは絶対にありません。
- * 調査票に書いていただいた事柄は、お配りした「ご協力のお願い」にも書いてありますように、統計をつくるためだけに使われるもので、これが課税の資料など、統計以外の目的で使われることは決してありません。統計以外の目的に使うことは、法律でも固く禁じられております。
- * 出生動向基本調査は、わたくしどもと皆様との信頼関係の上で成り立っています。もし、皆様との約束を守らなければ、これからの調査には協力していただけなくなり、正確な統計資料をつくることができなくなってしまいます。

わたしのところが調査の対象になったのはどういうわけか

- * ご存じのとおり、現在、我が国の世帯数は約 5,000 万世帯、また、人口は 1 億人をはるかに超えております。したがって、これらの世帯・人口のすべてについて調査をお願いするとしますと、膨大な経費・人員・日時がかかります。
こうしたことから、出生動向基本調査では、一部の世帯について調査を行い、その結果から全体の状況を推定する方法で実施することにしております。
- * 具体的には、国民生活基礎調査にご協力いただいた地域の中から無作為に選ばれた地域にお住まいの世帯の方々にご回答をお願いしています。今回は皆さまがお住まいの地域が調査の対象に選ばれました。ご面倒をおかけしますが、大変重要な調査ですので、よろしくご協力をお願いいたします。

調査の結果は行政に利用されているのか

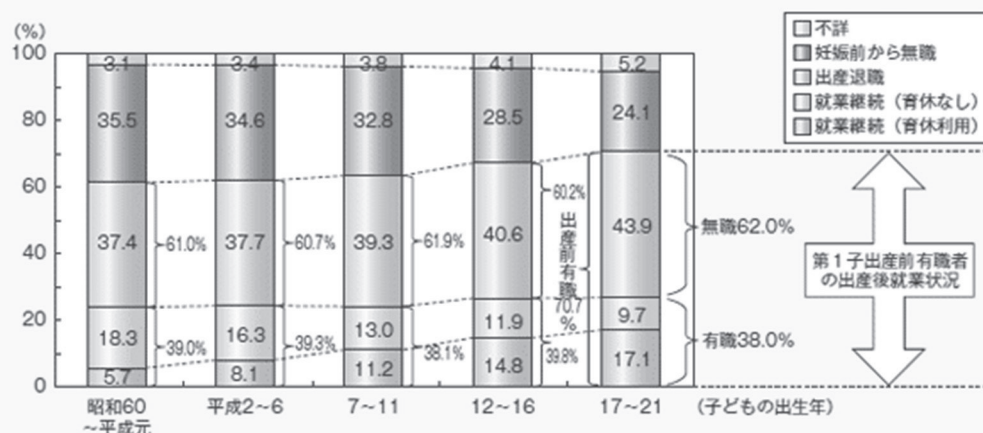
- * 行政サービスには、公営住宅を建てたり、道路をつくったり、橋をかけたりというように目に見える直接的なものがありますが、統計調査は、いったん国民の皆様の協力を得てからサービスに生かしていく間接的なものであります。
- * この調査は、わが国の結婚・出産の実態と背景を調べる唯一の全国調査です。今日の日本では少子化が進行し、これにともなう人口減少と高齢化、そして人々の生き方の変化は、今後の日本社会に大きな影響を与えるものです。この少子化の現状を把握し原因を解明することは、本調査の大切なテーマです。
- * 過去に行われた出生動向基本調査の結果は、子育て支援策、ワークライフバランスなど労働政策、男女共同参画政策等の幅広い分野において、国の審議会の資料や各種白書で利用され、それらの諸施策の政策目標データとしても活用されています。また、本調査のデータは、日本の将来人口推計において、出生率の将来見通しを設定する際の基礎資料となっています。
- * どうぞこれらの点をご理解いただいて、調査へのご協力をお願いいたします。
- * なお、調査の結果および国立社会保障・人口問題研究所の紹介は、ホームページ（<http://www.ipss.go.jp>）においても行っております。

参考表 6 調査活用事例

- 調査結果の公表時や、結婚・出産・子育てにかかわるテーマを扱う際、テレビ、雑誌、新聞など様々なマスコミ媒体でデータが広く活用されています。
- 国や都道府県、地方自治体の将来人口推計における出生率仮定設定に利用されています。
- 男女共同参画基本計画、少子化社会対策大綱、仕事と生活の調和推進のための行動指針、まち・ひと・しごと創生総合戦略における政策目標の評価データとして利用されています。
- 厚生労働白書、少子化社会対策白書、男女共同参画白書などの政府刊行物や、各種審議会などにおいて少子化の現状や課題を示す資料として幅広く活用されています。

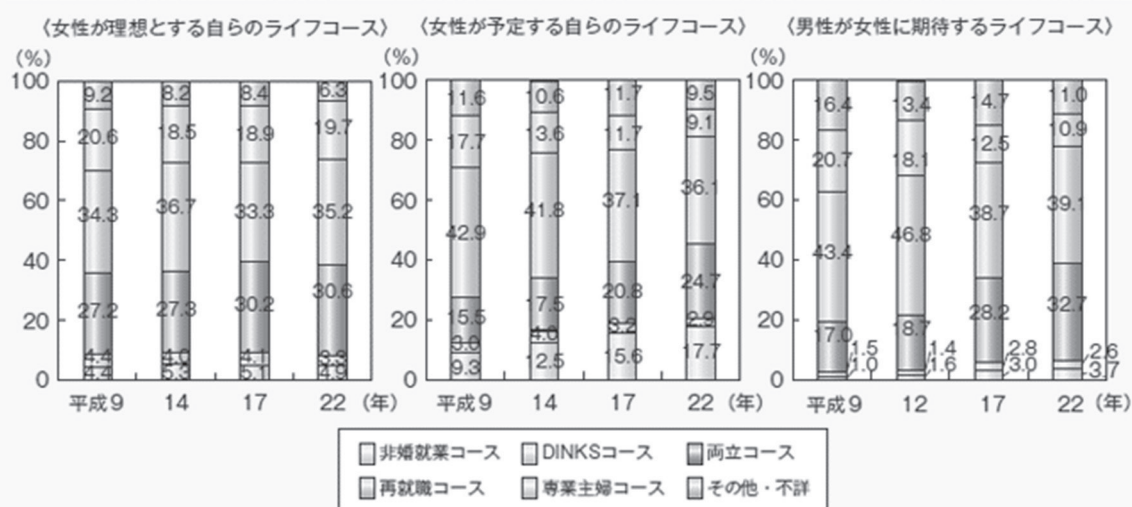
『男女共同参画白書』（平成25年版）掲載例

第1-3-3図 子どもの出生年別第1子出産前後の妻の就業経歴



- (備考) 1. 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査（夫婦調査）」より作成。
 2. 第1子が1歳以上15歳未満の子を持つ初婚どうし夫婦について集計。
 3. 出産前後の就業経歴
 就業継続（育休利用）－妊娠判明時就業～育児休業取得～子ども1歳時就業
 就業継続（育休なし）－妊娠判明時就業～育児休業取得なし～子ども1歳時就業
 出産退職－妊娠判明時就業～子ども1歳時無職
 妊娠前から無職－妊娠判明時無職～子ども1歳時無職

第1-特-26図 女性のライフコースに関する考え方の変化（男女別）



- (備考) 1. 国立社会保障・人口問題研究所「第14回出生動向基本調査 独身者調査の結果概要」より作成。
 2. 35歳未満の回答者を抽出している。

調査関係書類の保健所への提出期限

- 単位区別世帯名簿 月 日 ()
- 回収した調査票 月 日 ()

事故などのため日程どおりに調査を完了できない場合や、調査に当たって解決できない問題がおきた場合は、下の「連絡先」に連絡して下さい。

連絡先

あなたの受持ちの調査区番号

結婚と出産に関する全国調査 ＜第15回出生動向基本調査＞ ご協力のお願い

国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省に所属する国立の研究機関）は、現在、**結婚と出産に関する全国調査**（正式名称「出生動向基本調査」）を実施いたしております。これは、わが国における結婚、出産、子育て等の現状と課題を調べるために5年ごとに全国的に実施される標本調査であり、今回は第15回目の調査に当たります。

この調査は、日本全国から無作為に選ばれた地域にお住まいの方々にご回答をいただくもので、このたびは皆さまがお住まいの地域がコンピュータによって選定されました。本調査は、人口減少あるいは少子高齢化へと向かうこれからの日本社会のあり方や施策を考える上で、たいへん重要な調査と位置づけられております。皆さまにおかれましては、ご多用のところ誠に恐縮でございますが、何とぞご協力をいただけますよう、切にお願い申し上げます。

調査票の配布と回収のため、都道府県知事（または市長・区長）の任命を受けた調査員が皆さまのお宅にうかがいます。皆さまにご回答いただきました調査票は、回収用封筒に密封していただき、当研究所に届くまで開封を厳禁とするなど、情報管理には万全を期しております。さらに回答結果は、法律によって統計作成以外の使用が固く禁じられています。どうか安心してご協力をいただけますよう、重ねてお願い申し上げます。

なお、本調査のこれまでの調査結果については、当研究所ホームページ（<http://www.ipss.go.jp/>）でご覧いただけます。調査にご協力いただく方々を対象とした専用ホームページもございますので、あわせてご覧いただければ幸いです。今回ご協力をお願いしているこの調査の結果は、平成28（2016）年の夏ごろに公表される予定です。

平成27年6月

厚生労働省 国立社会保障・人口問題研究所長
森田 朗

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル6階
電話 (03)3595-2984 内線 4474, 4471
ホームページ <http://www.ipss.go.jp/>

調査についてのお問合せ先



2015年社会保障・人口問題基本調査

結婚と出産に関する全国調査

第15回出生動向基本調査

〔独身の方への調査票〕

(平成27(2015)年 6 月 1 日 現在の事実)

対象となられた皆さまへ

このたびは調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、わが国における結婚、出産、子育ての現状と課題を調べるために、国立社会保障・人口問題研究所が全国的に行う標本調査です。これからの日本社会の見通しや施策を考える上で、大切な資料となるものです。この調査票への回答は統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は法律で固く禁じられています。お答えいただいた内容が他にもれることは絶対にありませんので、どうぞ安心してありのままをお答えくださいますようお願いいたします。

(調査の詳しいご説明は、最終ページにございます)

なお、この調査票の配布と回収(密封封筒)には、都道府県知事(市長・区長)の任命を受けた調査員が皆さまのお宅にうかがいます。ご不明の点は調査員におたずねください。

記入上のお願い

- 1 この調査票は **18歳以上50歳未満の独身の方**に答えていただくためのものです。
- 2 平成27(2015)年**6月1日現在の事実**について、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことかを書きこむものがあります。
- 4 回答後の調査票は、回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください。封筒はそのまま国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、決して途中で開封されることはありません。

厚生労働省
国立社会保障・人口問題研究所

〒100-0011 東京都千代田区幸町2-2-3
日比谷国際ビル6階

電話 (03) 3595-2984 内線4474 / 4472
<http://www.ipss.go.jp>

調査員記入欄

都道府県	
保健所	
地域コード	

問1 あなたの(1)出生年月を記入し、(2)性別の欄は、あてはまる番号に○をつけてください。また、(3)中学校を卒業したときと、(4)最後の学校卒業後、お仕事を持ったときに居住していた場所をお答えください。

(1) 出生年月	(2) 性別	(3) 中学校を卒業したときに 住んでいたところ	(4) 最後の学校卒業後、仕事を 持ったときに住んでいたところ※1
1. 昭和 2. 平成 3. 西暦 _____年__月	1. 男 2. 女	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県他の市区町村 4. 他の都道府県 _____都道 _____府県	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県他の市区町村 4. 他の都道府県 _____都道 _____府県

※1 卒業後しばらくお仕事を持たなかった場合や仕事に就いたことがない場合、あるいは在学中からお仕事を持っていた場合は、卒業直後の居住地をお答えください。

※海外にいらっしゃった方は、「4」の下線の欄に国名をご記入ください。

問2 あなたが(1)最後に卒業した(あるいは在学中の)学校と、(2)卒業・在学の別について、あてはまる番号に○をつけてください。また、卒業された方は(3)卒業したときの年齢を下線の欄に記入してください。

(1) 卒業した(または在学中の)学校	(2) 卒業・在学の別
あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 男女共学の高校 3. 男女別学の高校 4. 専修・専門学校(高卒後) 5. 短大・高専 6. 女子大学 7. 共学の大学 8. 大学院 9. その他 ()	あてはまる番号に○ 1. すでに卒業 → (3)卒業した年齢 数字を記入 () 歳 2. 現在、在学中(休学等を含む)

問3 あなたとあなたの(ご両)親のお仕事についておたずねします。あなたについてはa、bの2つの時期について、また、(ご両)親については現在について、それぞれ(1)おつとめの状況、(2)職種、(3)おつとめ先の従業員数(ご両親については種別)のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	おたずねの対象者 ↓	おたずねの時期 ↓	(1) おつとめの状況	(2) 職種	(3) おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)
			1 正規の職員 2 パート・アルバイト 3 派遣・嘱託・契約社員 4 自営業主・家族従業者 5 無職・家事 6 学生	1 主として農林漁業 2 農林漁業以外の自営業 3 専門職 4 管理職 5 事務職 6 販売・サービス職 7 工場などの現場労働	1 10 2 30 3 100 4 300 5 1000 6 人以上 7 官公庁
あなた	a. 最後に学校を卒業した直後※	1~6のあてはまる番号に○をつける 1~4に○をつけたときは右の欄に進む	1 2 3 4 5 6	(1)で1~4に○をつけたときだけ あてはまる番号に○をつける	(1)で1~4に○をつけたときだけ あてはまる番号に○をつける
	b. 現在		1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7

※在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

【(ご両)親がご健在の方のみ記入】

		(1) おつとめの状況	(2) 職種	(3) おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)
お父さま	c. 現在	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	あてはまる番号1つに○ 1 大手企業 2 中小企業 3 官公庁
お母さま	d. 現在	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 大手企業 2 中小企業 3 官公庁

● 現在 お仕事をお持ちの方 にうかがいます。お仕事をお持ちでない方は次の 問5 へ進んでください。

問4 あなたの現在のお仕事について、次の(1)～(4)には該当する数字を記入し、(5)については、あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

あなたのお仕事について (現在仕事に就いている場合のみご記入ください)																
(1) 勤務する日1日の平均的な労働時間	1日あたり平均 時間 分 ※残業時間も含めた平均的な労働時間をご記入ください。															
(2) 1週間の平均的な労働日数	週あたり平均 日															
(3) 現在の仕事の勤続または継続年数※1	およそ 年 ※1年未満の場合は、1年としてください。															
(4) 先月(5月)の収入	約 万円 ※事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた額を記入してください。次の(5)も同様です。															
(5) 昨年(平成26年)の年収	<table border="0"> <tr> <td>税込み</td> <td>0. 1～99万円</td> <td>3. 300万円台</td> <td>6. 600万円台</td> <td>9. 900万円台</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1. 100万円台</td> <td>4. 400万円台</td> <td>7. 700万円台</td> <td>10. 1000万円以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2. 200万円台</td> <td>5. 500万円台</td> <td>8. 800万円台</td> <td>11. なし</td> </tr> </table>	税込み	0. 1～99万円	3. 300万円台	6. 600万円台	9. 900万円台		1. 100万円台	4. 400万円台	7. 700万円台	10. 1000万円以上		2. 200万円台	5. 500万円台	8. 800万円台	11. なし
税込み	0. 1～99万円	3. 300万円台	6. 600万円台	9. 900万円台												
	1. 100万円台	4. 400万円台	7. 700万円台	10. 1000万円以上												
	2. 200万円台	5. 500万円台	8. 800万円台	11. なし												

※1 休業からの復帰や社内の業務異動後からではなく、その勤め先に勤め始めた時期からの年数をお書きください。

● すべての方 に、(ご両)親やごきょうだいのことについてうかがいます。

問5 あなたの(ご両)親の(1)出生年と年齢、(2)現在のあなたとの同居／別居、(3)最後に卒業した学校についておたずねします。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。

	お父さま	お母さま
(1) 出生年	[1. 明治 2. 大正 3. 昭和 4. 西暦] _____年 生まれ (満_____歳) ※満年齢の記入はご健在の方のみで結構です	[1. 明治 2. 大正 3. 昭和 4. 西暦] _____年 生まれ (満_____歳) ※満年齢の記入はご健在の方のみで結構です
(2) 現在のあなたとの同居	1. 同居 2. 同じ市区町村内で別居 3. それ以外の地域で別居 4. すでに亡くなられた	1. 同居 2. 同じ市区町村内で別居 3. それ以外の地域で別居 4. すでに亡くなられた
(3) 最後に卒業した学校 ※ 旧制の高等学校、小学校は中学校卒としてください。旧制の高等女学校は高校卒としてください。	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()

問6 あなたの兄弟姉妹の数を()内に記入してください(亡くなられた方は含めません)。

(1) きょうだい数	(2) きょうだいの内訳				(3) 結婚している きょうだい	(4) 子どもがいる きょうだい
あなたを含めて合計 ()人	兄()人 いない場合は○を記入	姉()人 いない場合は○を記入	弟()人 いない場合は○を記入	妹()人 いない場合は○を記入	()人 いない場合は○を記入	あなた以外に ()人

● ここからは、**すべての方**に結婚、男女関係、家庭、子どもについてのお考えをうかがいます。

問7 今のあなたにとって、結婚することにはなにか利点があると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。「1.利点があると思う」に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な利点を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。

どちらかの番号に○	今のあなたにとって結婚することは	右の回答欄に番号を記入	1. 経済的に余裕がもてる 2. 社会的信用を得たり、周囲と対等になれる 3. 精神的な安らぎの場が得られる 4. 現在愛情を感じている人と暮らせる 5. 自分の子どもや家族をもてる 6. 性的な充足が得られる 7. 生活上便利になる 8. 親から独立できる 9. 親を安心させたり周囲の期待にこたえられる 10. その他 ()	回答欄 (番号を記入)	
	1. 利点があると思う 2. 利点はないと思う			最大の利点	第二の利点

問8 それでは逆に今のあなたにとって、独身生活には結婚生活にはない利点があると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。「1.利点があると思う」に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な利点を2つまで選んで右の回答欄に番号を記入してください。

どちらかの番号に○	今のあなたにとって独身生活は	右の回答欄に番号を記入	1. 行動や生き方が自由 2. 異性との交際が自由 3. 金銭的に裕福 4. 住宅や環境の選択の幅が広い 5. 家族を養う責任がなく、気楽 6. 友人などとの広い人間関係が保ちやすい 7. 職業をもち、社会とのつながりが保てる 8. 現在の家族とのつながりが保てる 9. その他 ()	回答欄 (番号を記入)	
	1. 利点があると思う 2. 利点はないと思う			最大の利点	第二の利点

問9 下のワクの中に女性の生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ、最も近いと思われるタイプの番号を下のワクから選び、回答欄に記入してください。

【女性の方へ】 (1)あなたの理想とする人生はどのタイプですか。
(2)理想は理想として、実際になりそうなあなたの人生はどのタイプですか。

女性回答欄	(1) 理想とする人生	(2) 実際になりそうな人生

【男性の方へ】 パートナー(あるいは妻)となる女性には、どのようなタイプの人生を送ってほしいと思いますか。

男性回答欄	パートナー(あるいは妻)となる女性に望む人生

上の回答欄に番号を記入	1. 結婚せず、仕事を続ける 2. 結婚するが子どもは持たず、仕事を続ける 3. 結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける 4. 結婚し子どもを持つが、結婚あるいは出産の機会にいったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ 5. 結婚し子どもを持ち、結婚あるいは出産の機会に退職し、その後は仕事を持たない 6. その他 ()
-------------	---

● ひきつづき、すべての方にうかがいます。

問10 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑬のような考え方を示しました。それぞれについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれの右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

※本問では賛成・反対の立場が取りやすいよう断定的な表現を用いています。
また必ずしも一般的でない考え方も含まれています。

	(左の考え方に)			
	1 ま っ た く 賛 成	2 い ど え ち ば ら 賛 成 と	3 い ど え ち ば ら 反 対 と	4 ま っ た く 反 対
	それぞれ番号1つに○			
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない	1	2	3	4
④ どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ	1	2	3	4
⑤ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	1	2	3	4
⑥ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	1	2	3	4
⑦ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
⑧ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑨ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑩ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	1	2	3	4
⑪ 結婚していなくても、子どもを持つかまわない	1	2	3	4
⑫ 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	1	2	3	4
⑬ 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい	1	2	3	4

問11 あなたの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。

	1 あ て は ま る	2 あ ど ち は ま か ら い え ば	3 あ ど ち は ま か ら な い え ば	4 あ て は ま ら な い	5 該 当 し な い
	それぞれ番号1つに○				
① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった（よくある）	1	2	3	4	—
② 両親のような夫婦関係をうらやましく思う	1	2	3	4	5
③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思う	1	2	3	4	5
④ 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多い	1	2	3	4	5

● このページでは、結婚経験をはじめ個人的なことからについてうかがいます。
 ※ 立ち入った内容も含まれますが、社会関係の時代的な変化をとらえ、施策を考える上で大切な資料となります。調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をいただけますようお願いいたします。

問12 あなたはこれまでに結婚（届け出をしたもの）をしたことがありますか。あてはまる番号に○をつけてください。結婚経験がある方は、最初の結婚についての年月と、これまで経験した結婚回数を下線の欄に記入してください。

(1) 結婚経験の有無	最初の結婚について		(4) 結婚回数
1. ない 2. ある（離別した） 3. ある（死別した）	(2) 結婚生活を始めた年月 [1. 昭和 2. 平成 3. 西暦] _____年____月	(3) 同居をやめたとき、 または死別をした年月 [1. 昭和 2. 平成 3. 西暦] _____年____月	() 回

問13 あなたはこれまでに同棲の経験（特定の異性と結婚の届け出なしで一緒に生活したこと）がありますか。あてはまる番号に○をつけ、該当する方は同棲をした（している）時期（年齢）を記入してください。

(1) 同棲の経験	(2) 同棲の時期 (一番最近の経験について)
1. ない 2. 以前はあるが現在はしていない 3. 現在している	() 歳から () 歳まで

問14 あなたはこれまでに(1)異性と性交渉をもったことがありますか。ある場合には、一番最近の経験では(2)避妊を行いましたか、また(3)その方法はなんですか。あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 異性と性交渉の経験	(2) 避妊の実行 (一番最近の経験について)	(3) 避妊の方法
1. ある 2. ない	1. 避妊をした 2. 避妊をしなかった	1. コンドーム 4. 性交中絶（膣外射精） 2. オギノ式・基礎体温法 5. その他 3. ピル（経口避妊薬） ()

問15 あなた（男性の場合は妻やパートナー）がこれまでに生んだお子さんについて、あてはまる番号に○をつけ、該当するお子さんの出生年月を記入してください。

(1) これまでに生んだお子さんの数	(2) お子さんの出生年月								
0. 子どもはいない 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人以上 () 人	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1人目</td> <td>_____年____月 出生</td> </tr> <tr> <td>2人目</td> <td>_____年____月 出生</td> </tr> <tr> <td>3人目</td> <td>_____年____月 出生</td> </tr> </tbody> </table>		[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]	1人目	_____年____月 出生	2人目	_____年____月 出生	3人目	_____年____月 出生
	[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]								
1人目	_____年____月 出生								
2人目	_____年____月 出生								
3人目	_____年____月 出生								

※4人以上いらっしゃる方は、3人までの記入で結構です。

問16 あなたには現在、(1)交際している異性がありますか。(1)の欄のあてはまる番号に○をつけてください。また、その回答の後の矢印にしたがって、(2) 交際の希望、(3) 交際相手との結婚希望（最も親しい相手）、(4) 結婚予定の年月のいずれかについて回答してください。

(1) 異性と交際の状況	(2) 異性と交際の希望	(3) (最も親しい) 交際相手との結婚の希望
1. 交際している異性はいない 2. 友人として交際している異性がいる 3. 恋人として交際している異性がいる 4. 婚約者がいる	1. 交際を望んでいる 2. とくに異性と交際を望んでいない	1. 結婚したいと思っている 2. とくに結婚は考えていない

(4) 結婚予定は [1. 平成 2. 西暦] _____年____月頃

問18へ

問17 (最も親しい) 交際相手とは、いつ頃どのようなきっかけで知り合いましたか。(1)知り合った年月を記入し、(2)知り合ったきっかけのあてはまる番号に○をつけてください。また、交際相手の(3)年齢、(4)最後に卒業した(または在学中の)学校、(5)おつとめの状況についてお答えください。

(1)知り合った年月	(2) 知り合ったきっかけ	交 際 相 手 に つ い て		
		(3)年 齢	(4)卒業(在学中)の学校	(5)おつとめの状況
1. 昭和 2. 平成 3. 西暦 ____年 ____月 ____日	1. 学校で 2. 職場や仕事の関係で 3. 幼なじみ・隣人関係 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで 5. 友人や兄弟姉妹を通じて 6. 見合いで(親せき・上役などの紹介も含む) 7. 結婚相談所で 8. 街なかや旅先で 9. アルバイトで 10. その他 (	() 歳	1. 中学校 2. 高 校 3. 専修・専門 学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大 学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 正規の職員 2. パート・アルバイト 3. 派遣・嘱託・契約社員 4. 自営業主・家族従業者・内職 5. 無職・家事 6. 学生

問18 あなたは、(1)子どもは何人くらいほしいですか。また、(2)子どもの男女の組合せには希望がありますか。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に人数を記入してください。また、子どもを希望する方は、(3)最初の(次の)お子さんを持ちたい年齢を下線の欄に記入してください。

(1) 希望する子どもの数		
O. 子どもはいらない→問20へ 1. 1人 2. 2人 3. 3人 4. 4人 5. 5人以上 ()人	(2) 男女の組合せの希望 男女の組合せに、 1. 希望がある→ { 男の子()人 { 女の子()人 } 2. とくに希望はない →	(3)最初の(次の)お子さんを持ちたい年齢 あなたが () 歳くらいのとき

問19 1人以上の子どもをほしいとお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

あてはまる番号すべてに◎をつける

1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
2. 子どもを持つことで周囲から認められるから
3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから
4. 子どもは老後の支えになるから
5. 子どもは将来の社会の支えになるから
6. 子どもは夫婦関係を安定させるから
7. 好きな人の子どもを持ちたいから
8. 交際相手や親など周囲が望むから
9. その他 ()

● すべての方 にかかいます。

問20 あなたの生活スタイルについておたずねします。下の①～⑦のそれぞれの生活スタイルがあなたご自身にあてはまるかどうかについて、右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

	(左の考え方に)			
	1 あてはまる	2 あてはまる はらか まとい ええ	3 あてはまる はらか まとい ええ	4 あてはまる はらか まとい ええ
	それぞれ番号1つに○			
① 仕事以外で、国内旅行や海外旅行によく出かける	1	2	3	4
② 衣服や持ちものには、こだわりが強い方だ	1	2	3	4
③ 欲しいものを買ったり、好きなことに使えるお金が少ない	1	2	3	4
④ 気軽に一緒に遊べる友人が多い	1	2	3	4
⑤ 生きがいとなるような趣味やライフワークを持っている	1	2	3	4
⑥ 一人の生活を続けても寂しくないと思う	1	2	3	4
⑦ 【職業をお持ちの方のみ】 仕事のために、私生活を犠牲にすることがよくある	1	2	3	4

問21 あなたのお子さんには、どの程度の教育を受けさせたいですか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。お子さんがいない場合も、いると仮定して、(1)男の子、(2)女の子それぞれについてお答えください。

(1) 男の子の教育	(2) 女の子の教育
あてはまる番号1つに○	あてはまる番号1つに○
1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専
5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()

● すべての方 にかかいます。

問22 自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

1. いずれ結婚するつもり	→ 問29へ
2. 一生結婚するつもりはない	

問23 同じく自分の一生を通じて考えた場合、あなたの結婚に対するお考えは、次のうちどちらですか。

1. ある程度の年齢までには結婚するつもり
2. 理想的な相手が見つかるまでは結婚しなくてもかまわない

● 引きつづき、「いずれ結婚するつもり」の方 にかがいます。

問24 それでは今から一年以内の結婚に関してはどのようにお考えですか。

1. 一年以内に結婚したい
2. 理想的な相手が見つければ結婚してもよい
3. まだ結婚するつもりはない

問25 あなたは何歳ぐらいのときに何歳ぐらいの相手と結婚したいと思いますか。希望する年齢を下線の欄に記入してください。

自分()歳ぐらいのときに
相手()歳ぐらいの人と結婚したい

問26 あなたは結婚相手を決めるとき、次の①～⑧の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

① 相手の学歴	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
② 相手の職業	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
③ 相手の収入などの経済力	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
④ 相手の人から	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
⑤ 相手の容姿	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
⑥ 共通の趣味の有無	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
⑦ 自分の仕事に対する理解と協力	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない
⑧ 家事・育児に対する能力や姿勢	1. 重視する	2. 考慮する	3. あまり関係ない

問27 現在交際している人と（あるいは理想的な相手が見つかった場合）一年以内に結婚するとしたら、なにか障害になることがあると思いますか。左下のワクのあてはまる番号に○をつけてください。1に○をつけた方は、右側のワクの中から具体的な障害を2つまで選んで、右の回答欄に番号を記入してください。

どちらかの番号に○	一年以内に結婚するとしたら 1. 障害になることがあると思う 2. 障害になることはないと思う	右の回答欄に番号を記入	1. 結婚生活のための住居 2. 結婚資金（挙式や新生活の準備のための費用） 3. 親の承諾 4. 親との同居や扶養 5. 学校や学業上の問題 6. 職業や仕事上の問題 7. 年齢上のこと 8. 健康上のこと 9. その他（ ）		
	回答欄 （番号を記入）				
	最大の障害		第二の障害		

● ひきつづき、「いずれ結婚するつもり」の方にうかがいます。

問28 あなたが現在独身でいる理由は、次の中から選ぶとすればどれですか。ご自分に最もあてはまると思われる理由を最高3つまで選んで、右の回答欄に番号を記入してください（すでに結婚が決まっている方は、「最大の理由」の欄に12を記入してください）。

		回答欄 (番号を記入)		
		最大の理由	第二の理由	第三の理由
1.	結婚するにはまだ若すぎるから			
2.	結婚する必要性をまだ感じないから			
3.	今は、仕事（または学業）にうちこみたいから			
4.	今は、趣味や娯楽を楽しみたいから			
5.	独身の自由さや気楽さを失いたくないから			
6.	適当な相手にまだめぐり会わないから			
7.	異性とうまくつき合えないから			
8.	結婚資金が足りないから			
9.	結婚生活のための住居のめどがたたないから			
10.	親や周囲が結婚に同意しない（だろう）から			
11.	その他（ ）			
12.	すでに結婚が決まっている			

● 「一生結婚するつもりはない」と答えた方（問22で2に○をつけた方）にうかがいます。
「いずれ結婚するつもり」の方はここで終わります。末尾のご意見の欄にお進みください。

問29 現在のお気持ちは別として、これまでに「いずれ結婚するつもり」と思ったことはありますか。

1. ある
2. ない

問30 今後、(1)あなたのお考えが「いずれ結婚するつもり」に変わる可能性はありますか。あてはまる番号に○をつけてください。1～3を選んだ方は、(2)変わるとする場合、その理由として考えられるものを右下のワクの中から3つまで選び、回答欄に番号を記入してください。

(1)結婚に対する考えの変化の可能性		(2)「いずれ結婚するつもり」に変わる場合の理由									
どれか一つの番号に○	今後、結婚に対する考えが変わる可能性は 1. あると思う 2. あるかもしれない 3. たぶんないと思う 4. ないと思う → 右の回答欄に番号を記入	1. 雇用・労働条件が改善する 2. 収入や貯蓄が増える 3. 子育て支援策が充実する 4. 家事・育児を男女で分けあう社会になる 5. 家族を養う責任を男女ともに担う社会になる 6. 結婚に関する法律や制度が変わる 7. 異性と出会う機会が増える 8. 結婚したいと思う相手が現れる 9. 子どもができる 10. 自分や家族の個人的事情が変わる 11. その他（ ） → <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">回答欄 (番号を記入)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>最大の理由</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第二の理由</td> <td></td> </tr> <tr> <td>第三の理由</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		回答欄 (番号を記入)		最大の理由		第二の理由		第三の理由	
	回答欄 (番号を記入)										
	最大の理由										
	第二の理由										
	第三の理由										

● 以上で質問は終わりです。以下は自由記述欄です（ご意見等が無ければ空欄のままでかまいません）。

皆様が日頃の生活を通じて、導入してほしい、あるいは充実してほしいと感じている施策があれば、下の欄に自由にご記入ください。

そのほか、本調査について、あるいは結婚、出産、子育て、少子化、人口問題などについて、ご意見などがございましたら、下の欄に自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください。
封筒は国立社会保障・人口問題研究所へ届くまで、途中で開封されることはありません。

※ 貴重なお時間をいただきましたことをこころから感謝申し上げます。本調査の結果は当研究所における統計分析を通して、国民の皆様の生活向上に役立てられることになります。なお、過去の結果については、下記に掲載しています。

出生動向基本調査ホームページ・アドレス（対象者用） <http://www.ipss.go.jp/nfs15/>

§ 調査についてのご説明

◇ 出生動向基本調査とは？

この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育てについて調べる全国標本調査で、ほぼ5年ごとに実施されてきました。今回は15回目にあたります。ご夫婦の方への調査と、独身の方への調査の2種類があります。

◇ 調査の目的

国や自治体は、さまざまな施策を実施するにあたって、住民のおかれた状況や問題を把握しておかなくてはなりません。この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育ての状況を把握し、これにかかわる政策的な課題を社会的科学的立場から探ることが主な目的です。とりわけ今日の日本では少子化が進行しており、これにともなう人口の減少と高齢化、そしてひとりひとりの生き方の変化が、今後の日本社会に大きな影響を与えるとの指摘がされています。この少子化の現状を把握し、原因を究明することは、本調査の大切な課題のひとつです。

◇ 調査の対象

この調査は、全国から無作為に選ばれた地域にお住まいの方々を対象としており、以下の2つのグループの方々に別々の調査票を用意しています。

〔結婚されている方への調査票〕（黄色の調査票）

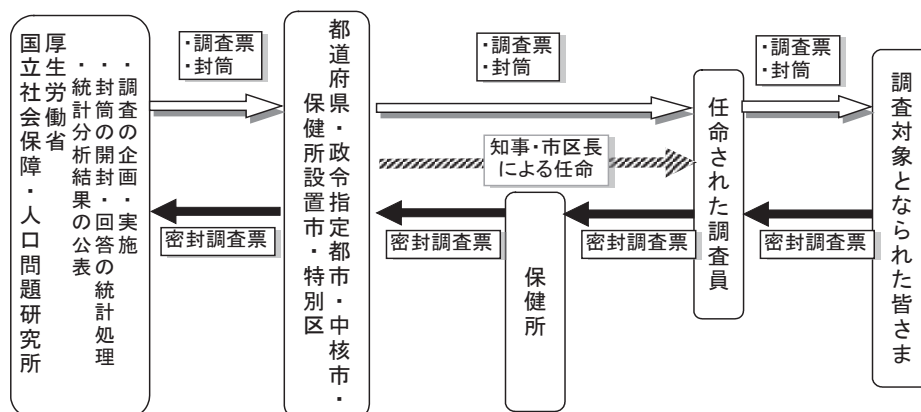
—— 届出の有無を問わず、結婚されている50歳未満の女性の方すべてが対象です。

〔独身の方への調査票〕（緑色の調査票）

—— 18歳以上50歳未満の独身の方（男性および女性）すべてが対象です。

◇ 調査のしくみ

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省に所属する国立の研究機関）が、統計法に基づく総務大臣の承認を受けて、国、都道府県（または政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区）、地域の保健所と連携して実施します。調査は、知事（市長・区長）から任命された調査員が皆さまのお宅にうかがい、調査票の配布、および回答いただいた調査票（封筒に入れて密封したもの）を回収する方法で行います。



◇ プライバシー・個人情報の保護について

この調査票上の回答はすべて統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は「統計法」という法律で固く禁じられています。皆さまに回答いただき回収用封筒に密封された調査票は、調査員が回収した後も開封されることなく国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、その後は厳重な管理の下に置かれます。統計を作成する過程では個人を特定する情報はすべて除外されます。したがって、個人情報をもれることは絶対にありません。

◇ その他のお問い合わせ

回答方法などについてのお問い合わせは、調査員におたずねください。また、本調査の詳細情報、これまでの調査結果、よくあるお問い合わせなどについては、インターネット上に出生動向基本調査のホームページを開設して紹介しています。そちらをご参照ください。

出生動向基本調査ホームページ・アドレス（対象者用） <http://www.ipss.go.jp/nfs15/>



2015年社会保障・人口問題基本調査

結婚と出産に関する全国調査

第15回出生動向基本調査

〔結婚されている方への調査票〕

(平成27(2015)年 6 月 1 日 現在の事実)

対象となられた皆さまへ

このたびは調査にご協力いただきまして、まことにありがとうございます。

この調査は、わが国における結婚、出産、子育ての現状と課題を調べるために、国立社会保障・人口問題研究所が全国的に行う標本調査です。これからの日本社会の見通しや施策を考える上で、大切な資料となるものです。この調査票への回答は統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は法律で固く禁じられています。お答えいただいた内容が他にもれることは絶対にありませんので、どうぞ安心してありのままをお答えくださいますようお願いいたします。

(調査の詳しいご説明は、最終ページにございます)

なお、この調査票の配布と回収(密封封筒)には、都道府県知事(市長・区長)の任命を受けた調査員が皆さまのお宅にうかがいます。ご不明の点は調査員におたずねください。

記入上のお願い

- 1 この調査票は結婚している 50 歳未満の女性の方に、ご夫婦のことについて答えていただくためのものです(「結婚している」とは、届出の有無にかかわらず配偶者がいることです)。
- 2 平成 27(2015)年 6 月 1 日現在の事実について、ご記入ください。
- 3 回答のしかたは、あてはまる番号に○をつけるものと、必要なことがらを書きこむものがあります。
- 4 回答後の調査票は、回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください。封筒はそのまま国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、決して途中で開封されることはありません。

厚生労働省
国立社会保障・人口問題研究所
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3
日比谷国際ビル6階
電話 (03) 3595-2984 内線4474 / 4471
<http://www.ipss.go.jp>

調査員記入欄							
都道府県							
保健所							
地域コード							

問1 あなた方ご夫婦の(1)出生年月、(2)結婚生活を始めた年月、(3)結婚を届け出た年月、および(4)初再婚の別と結婚回数について、あてはまる番号に○をつけ、下線の欄に数字を記入してください。

	(1) 出生年月	(2) 結婚生活を始めた年月	(3) 結婚を届け出た年月	(4) 初再婚の別
あなた	1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 西暦	1. 昭和 2. 平成 3. 西暦	1. 結婚生活開始と同時 2. 下の年月に届け出た ↳ 1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 西暦	1. 初婚 2. 離婚後再婚 3. 死別後再婚 } 結婚 () 回目
夫	1. 昭和 2. 平成 ____年__月 3. 西暦	____年__月	3. (まだ)届出はしていない	1. 初婚 2. 離婚後再婚 3. 死別後再婚 } 結婚 () 回目

問2 あなた方ご夫婦がそれぞれ (1)最後に卒業された（あるいは在学中の）学校と、(2)卒業・在学の別について、あてはまる番号に○をつけてください。また、卒業された方は (3)卒業したときの年齢を下線の欄に記入してください。

	(1) 卒業した（または在学中の）学校	(2) 卒業・在学の別
あなた	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 男女共学の高校 3. 男女別学の高校 4. 専修・専門学校(高卒後) 5. 短大・高専 6. 女子大学 7. 共学の大学 8. 大学院 9. その他 ()	あてはまる番号に○ 1. すでに卒業 → (3)卒業した年齢 数字を記入 () 歳 2. 現在、在学中(休学等を含む)
夫	あてはまる番号1つに○ 1. 中学校 2. 男女共学の高校 3. 男女別学の高校 4. 専修・専門学校(高卒後) 5. 短大・高専 6. 大学 7. 大学院 8. その他 ()	あてはまる番号に○ 1. すでに卒業 → (3)卒業した年齢 数字を記入 () 歳 2. 現在、在学中(休学等を含む)

問3 あなた方ご夫婦が、下の(1)～(3)の時期に住んでいた場所についてお答えください。

	(1)中学校を卒業したとき	(2)最後の学校卒業後、仕事を持ったとき※1	(3)現在の結婚を決めたとき
あなた	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県の他の市区町村 4. 他の都道府県 ↳ 都道府県	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県の他の市区町村 4. 他の都道府県 ↳ 都道府県	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県の他の市区町村 4. 他の都道府県 ↳ 都道府県
夫	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県の他の市区町村 4. 他の都道府県 ↳ 都道府県	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県の他の市区町村 4. 他の都道府県 ↳ 都道府県	1. 現在と同じ居住地 2. 現在と同じ市区町村内 3. 現在と同じ都道府県の他の市区町村 4. 他の都道府県 ↳ 都道府県

※1 卒業後しばらくお仕事を持たなかった場合や仕事に就いたことがない場合、あるいは在学中からお仕事を持っていた場合は、卒業直後の居住地をお答えください。

※海外にいらっしゃる方は、「4」の下線の欄に国名をご記入ください。

● このページでは、あなた方ご夫婦のお仕事についてうかがいます。

問4 あなた方ご夫婦のいろいろな時期のお仕事についておたずねします。下のa～gの各時期における(1)おつとめの状況、(2)職種、(3)おつとめ先の従業員数について、回答欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

おたずねの対象者 ↓	おたずねの時期 ↓	(1)おつとめの状況※1	(2)職 種	(3)おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)
		1 正規の職員 2 パート・アルバイト 3 派遣・嘱託・契約社員 4 自営業主・家族従業者 5 無職・家事 6 学生 回答欄 1～6のあてはまる番号に○をつける 1～4に○をつけたときは右の欄に進む	1 主として農林漁業 2 農林漁業以外の自営業 3 専門職 4 管理職 5 事務職 6 販売・サービス職 7 工場などの現場労働	1 1人 2 10人 3 30人 4 100人 5 300人 6 1000人以上 7 官公庁
あなた	a. 最後に学校を卒業した直後※2	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
	b. 現在の結婚を決めたとき	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
	c. 結婚直後	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
	d. 現在	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
夫	e. 最後に学校を卒業した直後※2	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
	f. あなたとの結婚を決めたとき	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7
	g. 現在	1 2 3 4 5 6	1 2 3 4 5 6 7	1 2 3 4 5 6 7

※1 産休・育児休業中の場合は、就業とみなします。休業前のおつとめの状況に○をつけてください。

※2 在学中の方は、前の学校を卒業した直後の状況についてご記入ください。

問5 あなた方ご夫婦の現在のお仕事について、次の(1)～(4)には該当する数字を記入し、(5)については、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

	あなたの仕事について (現在仕事に就いている場合のみご記入ください)	夫の仕事について (現在仕事に就いている場合のみご記入ください)
(1) 勤務する日1日の平均的な労働時間	1日あたり 平均 時間 分	1日あたり 平均 時間 分
＜残業時間も含めた平均的な労働時間をご記入ください＞		
(2) 1週間の平均的な労働日数	週あたり平均 日	週あたり平均 日
(3) 現在の仕事の勤続または継続年数※	およそ 年 (1年未満の場合は、1年として下さい。)	およそ 年
(4) 先月(5月)の収入	税込み 約 万円	税込み 約 万円
＜事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた額を記入してください。次の(5)も同様です＞		
(5) 昨年(平成26年)の年収	税込み 0. 1～99万円 1. 100万円台 2. 200万円台 3. 300万円台 4. 400万円台 5. 500万円台 6. 600万円台 7. 700万円台 8. 800万円台 9. 900万円台 10. 1000万円以上 11. なし	税込み 0. 1～99万円 1. 100万円台 2. 200万円台 3. 300万円台 4. 400万円台 5. 500万円台 6. 600万円台 7. 700万円台 8. 800万円台 9. 900万円台 10. 1000万円以上 11. なし

※休業からの復帰や社内の業務異動後からではなく、その勤め先に勤め始めた時期からの年数をお書きください。

● 次の問は、**現在お仕事をもちでない方** にかかいます。お仕事をもちの方は問7へお進みください。

問6 あなたは今後、(1)収入を伴うお仕事をしたいですか。お仕事をしたい場合、(2)どのようなお仕事に、(3)どのような理由でつきたいですか。仕事につきたい理由については、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

(1)就業希望の有無	(2)希望する就業形態	あてはまる番号すべてに○をつけ、最も重要な理由には◎をつける	(3)お仕事につきたい理由
あてはまる番号1つに○ 1. すぐにでも働きたい 2. しばらく間をおいてから働きたい ↳ () 年後くらい 3. とくに時期の希望はないが いずれ働きたい 4. 今後も仕事をするつもりはない 5. その他 ()	あてはまる番号1つに○ 1. 正規の職員 2. パート・アルバイト 3. 派遣・嘱託・契約社員 4. 自営業主・家族従業者・内職		1. 経験・技能を生かしたい 2. 居場所や人間関係を広げたい 3. 時間に余裕ができた(できる) 4. 親族や知り合いに頼まれた 5. 自分の収入を得たい 6. 子どもの教育費のため 7. 生活費のため 8. 貯蓄のため 9. その他 ()

● **すべての方** に、あなた方ご夫婦の結婚とお子さんの数についてうかがいます。

問7 あなた方ご夫婦が、(1)初めてお知り合いになったのはいつですか。(2)婚約あるいは結婚の合意をなしたのはいつですか。また、(3)結婚する前に同棲をしていた期間がありましたか。

(1) 初めて知り合った年月	(2) 婚約または結婚の合意の年月	(3) 同棲期間の有無※
1. 昭和 2. 平成 年 月 3. 西暦	1. 昭和 2. 平成 年 月 3. 西暦	1. ない 2. あった ↳ 年 カ月くらい

※同棲期間とは、結婚生活を始める前に生活を共にした期間のことです。

問8 あなた方ご夫婦はどのようなきっかけでお知り合いになりましたか。あてはまる番号を1つ選んで○をつけてください。

ご夫婦が知り合ったきっかけ	
あてはまる番号1つに○	
1. 学校で 2. 職場や仕事の関係で 3. 幼なじみ・隣人関係 4. 学校以外のサークル活動やクラブ活動・習いごとで 5. 友人や兄弟姉妹を通じて	6. 見合いで(親せき・上役などの紹介も含む) 7. 結婚相談所で 8. 街なかや旅先で 9. アルバイトで 10. その他 ()

問9 あなた方ご夫婦のお子さんについておたずねします。次の下線の欄に該当する人数を記入してください。

	全部で	男の子	女の子
これまでに生んだお子さんは	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入
そのうち生存しているお子さんは	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入	() 人 いない場合は0を記入

● すべての方 に、あなた方ご夫婦のご両親とごきょうだいについてうかがいます。

問10 あなた方ご夫婦のご両親の(1)出生年と年齢、(2)最後に卒業した学校についておたずねします。あてはまる番号に○をつけ、下線の欄には数字を記入してください。

	あなた(妻)のお母さま	あなた(妻)のお父さま	夫のお母さま	夫のお父さま
(1) 出生年	[1.明治 2.大正 3.昭和 4.西暦] _____年 生まれ (満_____歳)	[1.明治 2.大正 3.昭和 4.西暦] _____年 生まれ (満_____歳) ※満年齢の記入は、ご健在の方のみで結構です。	[1.明治 2.大正 3.昭和 4.西暦] _____年 生まれ (満_____歳)	[1.明治 2.大正 3.昭和 4.西暦] _____年 生まれ (満_____歳)
(2) 最後に卒業した学	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()	1. 中学校 2. 高校 3. 専修・専門学校(高卒後) 4. 短大・高専 5. 大学 6. 大学院 7. その他 ()

※ 旧制の高等小学校、小学校は中学校卒として下さい。旧制の高等女学校は高校卒として下さい。

問11 あなた方ご夫婦のご両親との同居／別居について、あてはまる番号に○をつけてください。

おたずねの対象時期 ↓		(1)あなた(妻)のお母さま	(2)あなた(妻)のお父さま	(3)夫のお母さま	(4)夫のお父さま
		1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)	1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)	1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)	1 同居 2 同じ市区町村内で別居 3 それ以外の地域で別居 4 すでに亡くなっていた(いる)
各欄のあてはまる番号に1つずつ○					
a. 現在の結婚を決めたとき	あなた	1 2 3 4	1 2 3 4		
	夫				
b. 結婚直後		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4
c. 現 在		1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4	1 2 3 4

問12 あなた方ご夫婦の兄弟姉妹の数を下線の欄に記入してください(亡くなられた方は含めません)。

	(1) きょうだい数	(2) きょうだいの内訳				(3) 結婚している きょうだい	(4) 子どもがいる きょうだい
あなた	あなたを含めて合計 ()人	兄()人 いない場合は0を記入	姉()人 いない場合は0を記入	弟()人 いない場合は0を記入	妹()人 いない場合は0を記入	あなた以外に ()人 いない場合は0を記入	あなた以外に ()人 いない場合は0を記入
夫	夫を含めて合計 ()人	兄()人 いない場合は0を記入	姉()人 いない場合は0を記入	弟()人 いない場合は0を記入	妹()人 いない場合は0を記入	夫以外に ()人 いない場合は0を記入	夫以外に ()人 いない場合は0を記入

● ここからは、あなた方ご夫婦の妊娠・出産にかかわる事柄についてうかがいます。
立ち入った内容も含まれますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願いいたします。

問13 あなた方ご夫婦は、(1)現在、避妊を行っていますか。行っている場合、(2)避妊の方法はなんですか。あてはまる番号に○をつけてください。

(1) 現在の避妊の実行	(2) 避妊の方法
あてはまる番号1つに○	あてはまる番号すべてに○
1. 現在避妊をしている（不妊手術を含む）	1. コンドーム
2. 以前にしていたことがあるが現在はしていない	2. オギノ式・基礎体温法
3. 今まで避妊はしたことがない	3. IUD（リング・コイル・ループ）
	4. ピル（経口避妊薬）
	5. 性交中絶（膣外射精）
	6. 男性の不妊手術
	7. 女性の不妊手術
	8. その他（ ）

● 妊娠経験のある方 にかかいます。妊娠経験がない方は、問15へ進んでください。

問14 あなた方ご夫婦が経験されたすべての妊娠・出産について、(1)妊娠の結果、(2)妊娠/出産の時期、(3)妊娠前の予定のあてはまる番号に○をつけ、下線の欄に人数、年月、年齢を記入してください。
6回以上妊娠された方は最後に合計の妊娠回数を下線の欄に記入してください。

	(1) 妊娠の結果	(2) 妊娠/出産の時期	(3) 妊娠前の予定
第1回目の妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \end{array} \right\} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right\}$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	$\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \quad 2. \text{平成} \quad 3. \text{西暦}] \\ \quad \quad \quad \text{年} \quad \text{月} \text{出産} \end{array} \right\}$ あなたが（ ）歳のとき [1. 平成 2. 西暦] 年 月 出産予定	1回目の妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第2回目の妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \end{array} \right\} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right\}$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	$\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \quad 2. \text{平成} \quad 3. \text{西暦}] \\ \quad \quad \quad \text{年} \quad \text{月} \text{出産} \end{array} \right\}$ あなたが（ ）歳のとき [1. 平成 2. 西暦] 年 月 出産予定	2回目の妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第3回目の妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \end{array} \right\} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right\}$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	$\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \quad 2. \text{平成} \quad 3. \text{西暦}] \\ \quad \quad \quad \text{年} \quad \text{月} \text{出産} \end{array} \right\}$ あなたが（ ）歳のとき [1. 平成 2. 西暦] 年 月 出産予定	3回目の妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第4回目の妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \end{array} \right\} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right\}$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	$\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \quad 2. \text{平成} \quad 3. \text{西暦}] \\ \quad \quad \quad \text{年} \quad \text{月} \text{出産} \end{array} \right\}$ あなたが（ ）歳のとき [1. 平成 2. 西暦] 年 月 出産予定	4回目の妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった
第5回目の妊娠	1. 出生 → $\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{男} \\ 2. \text{女} \\ 3. \text{ふたご以上} \end{array} \right\} \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{男}(\quad)\text{人} \\ \text{女}(\quad)\text{人} \end{array} \right\}$ 2. 流産（死産を含む） 3. 人工妊娠中絶 4. 現在妊娠中	$\left\{ \begin{array}{l} [1. \text{昭和} \quad 2. \text{平成} \quad 3. \text{西暦}] \\ \quad \quad \quad \text{年} \quad \text{月} \text{出産} \end{array} \right\}$ あなたが（ ）歳のとき [1. 平成 2. 西暦] 年 月 出産予定	5回目の妊娠をしたとき 1. 早く子どもが欲しかった 2. まだ妊娠するつもりではなかった 3. もう妊娠するつもりはなかった 4. とくに考えていなかった

● 6回以上妊娠された方 → 合計（ ）回妊娠

- すべての方 にかがいます。
※この質問の回答は、不妊に悩むご夫婦の実情を全国的に把握し、施策を検討するために必要な資料となります。

問15 あなた方ご夫婦は、不妊について不安や悩みがありますか。また、不妊治療の経験はありますか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

(1) 悩みの有無 (1つだけに○)	(2) 不妊治療の経験の有無 (1つだけに○)
1. 子どもができないことを心配したことはない → 問17へ	1. 心配はしたが、特に医療機関にかかったことはない → 問17へ
2. 過去に子どもができないのではないかと心配したことがある	2. 過去に検査や治療を受けたことがある
3. 現在、子どもができないのではないかと心配している	3. 現在、検査や治療を受けている

- 前問(問15(2))で、不妊治療について「2. 過去に検査や治療を受けたことがある」「3. 現在、検査や治療を受けている」とお答えになった方にかがいます。

問16 (1)不妊治療の結果、お子さんが生まれましたか。生まれている場合、(2)治療内容別に該当するお子さんをお答えください。

(1) 治療の結果、お子さんが生まれましたか (あてはまる番号1つに○)	(2) 実施した不妊治療と該当するお子さん (あてはまるお子さんすべてに○)
1. いいえ	体外受精、顕微授精
2. はい	その他の不妊治療 (タイミング法、排卵誘発法、人工授精、男性・女性が受ける妊娠のための治療や手術など)

- ここからは、すべての方 に、子どもを持つことについてのお考えをうかがいます。

問17 あなた方ご夫婦にとって(1)理想的な子どもの数は何人ですか。また、(2)子どもの男女の別や組合せには理想がありますか。それぞれあてはまる番号に○をつけ、組合せに理想のある方は男の子、女の子の数を下線の欄に記入してください。

(1) 理想的な子どもの数	(2) 子どもの男女の別や組合せの理想
0. 子どもはいらない → 問19へ	1. 理想あり →
1. 1人	男の子 () 人
2. 2人	女の子 () 人
3. 3人	2. とくに理想はない
4. 4人	
5. 5人以上 () 人	

- 前問(問17(1))で、理想的な子どもの数が1人以上と答えた方(1～5に○をつけた方)にかがいます。

問18 理想的な子どもの数を1人以上とお考えになる理由は何ですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

あてはまる最も重要な理由には◎をつけてください。	1. 結婚して子どもを持つことは自然なことだから
	2. 子どもを持つことで周囲から認められるから
	3. 子どもがいると生活が楽しく心が豊かになるから
	4. 子どもは老後の支えになるから
	5. 子どもは将来の社会の支えになるから
	6. 子どもは夫婦関係を安定させるから
	7. 好きな人の子どもを持ちたいから
	8. 夫や親など周囲が望むから
	9. その他 ()

● すべての方 にかがいます。

問19 あなた方ご夫婦の今後のお子さんの予定についておたずねします。(1)お子さんの数と、(2)希望の時期について、あてはまる番号に○をつけてください。(2)で「できるだけ早く」「しばらく間をおいてから」とお答えになった場合は、(3)次のお子さんを持ちたい年齢を下線の欄にご記入ください。

(1) 今後のお子さんの予定 (現在妊娠中のお子さんも含めて)	(2) お子さんを希望する時期	(3) 次のお子さんを持ちたい年齢
あてはまる番号1つに○ 0. (もう) 生むつもりはない 1. (あと) 1人生むつもり 2. (あと) 2人生むつもり 3. (あと) 3人生むつもり 4. (あと) 4人以上生むつもり	あてはまる番号1つに○ 1. できるだけ早く 2. しばらく間をおいてから 3. とくに考えていない 4. 現在妊娠中	あなたが()歳くらいのとき

問20 そうしますと、あなた方ご夫婦は全部で何人のお子さんを持つおつもりですか。

0. 子どもは持たない	3. 3人
1. 1人	4. 4人
2. 2人	5. 5人以上 ()人

● 今後1人以上のお子さんを生むつもりの方(問19(1)の答えが1人以上の方) にかがいます。

問21 今後持つおつもりのお子さんの数が、もし結果的に持てないことがあるとしたら、その原因は何である可能性が高いですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。

持つつもりの子どもの数を実現できない原因(可能性)
あてはまる番号すべてに○
1. 収入が不安定なこと
2. 自分や夫の仕事(勤めや家業)の事情
3. 家事・育児の協力者がいないこと
4. 保育所など子どもの預け先がないこと
5. 今いる子どもに手がかかること
6. 年齢や健康上の理由で子どもができないこと
7. その他 ()
8. 持つつもりの子どもの数を実現できない可能性は低い

● 持つつもりの子どもの数(問20の答)が、理想的な子どもの数(問17(1)の答)より少ない方 にかがいます。

問22 持つつもりの子どもの数が、理想的な子どもの数より少ないのはどうしてですか。下の理由のうちから、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

あてはまる番号すべてに○をつけて、◎に最も重要な理由をつけてください。	1. 子育てや教育にお金がかかりすぎるから
	2. 家が狭いから
	3. 自分の仕事(勤めや家業)に差し支えるから
	4. 子どもがのびのび育つ環境ではないから
	5. 自分や夫婦の生活を大切にしたいから
	6. 高齢で生むのはいやだから
	7. これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから
	8. 健康上の理由から
	9. ほしいけれどもできないから
	10. 夫の家事・育児への協力が得られないから
	11. 夫が望まないから
	12. 末子が夫の定年退職までに成人してほしいから
	13. その他 ()

● **すべての方**に結婚、男女関係、家庭、子どもについてのお考えをうかがいます。

問23 結婚、男女関係、家庭、子どもを持つことについてはいろいろな考え方がありますが、下に例として①～⑬のような考え方を示しました。それぞれについて、あなたご自身はどのようにお考えでしょうか。それぞれの右の欄のあてはまる番号に○をつけてください。

※ 本問では賛成・反対の立場が取りやすいよう断定的な表現を用いています。
また、必ずしも一般的でない考え方も含まれています。

	(左の考え方に)			
	1 ま っ た く 賛 成	2 い ど え ち ば ら 賛 成 と	3 い ど え ち ば ら 反 対 と	4 ま っ た く 反 対
	それぞれ番号1つに○			
① 生涯を独身で過ごすというのは、望ましい生き方ではない	1	2	3	4
② 男女が一緒に暮らすなら結婚すべきである	1	2	3	4
③ 結婚前の男女でも愛情があるなら性交渉をもってかまわない	1	2	3	4
④ どんな社会においても、女らしさや男らしさはある程度必要だ	1	2	3	4
⑤ 結婚しても、人生には結婚相手や家族とは別の自分だけの目標を持つべきである	1	2	3	4
⑥ 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を半分犠牲にするのは当然だ	1	2	3	4
⑦ 結婚後は、夫は外で働き、妻は家庭を守るべきだ	1	2	3	4
⑧ 結婚したら、子どもは持つべきだ	1	2	3	4
⑨ 少なくとも子どもが小さいうちは、母親は仕事を持たず家にいるのが望ましい	1	2	3	4
⑩ いったん結婚したら、性格の不一致くらいで別れるべきではない	1	2	3	4
⑪ 結婚していなくても、子どもを持ってかまわない	1	2	3	4
⑫ 結婚した男性にとって、家族と過ごす時間は仕事の成功よりも重要だ	1	2	3	4
⑬ 女性が最初の子どもの産むなら20代のうちがよい	1	2	3	4

問24 あなたの結婚前までの身近な状況について、おたずねします。以下の①～④について、右の欄のあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。質問項目に該当する相手がいない（いなかった）場合は、5に○をつけてください。

		1 あてはまる	2 どちらかといえば	3 どちらでもない	4 あてはまらない	5 該当しない
結婚前までの 身近な状況		それぞれ番号1つに○				
	① 赤ちゃんや小さい子どもとふれあう機会がよくあった	1	2	3	4	—
	② 両親のような夫婦関係をうらやましく思っていた	1	2	3	4	5
	③ 結婚しているまわりの友人をみると、幸せそうだと思っていた	1	2	3	4	5
	④ 同年代の友人やきょうだいに、子どもを持っている人が多かった	1	2	3	4	5

● ここからは、**お子さんをお持ちの方**に育児期の状況についてうかがいます。
 お子さんをお持ちでない方は、問29へ進んでください。

問25 あなた方ご夫婦が**お子さんをお持ちになったとき**の**あなたのお仕事**についておたずねします。下のa～fの各時期における(1)おつとめの状況、(2)おつとめ先の従業員数について、あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

おたずねの対象者 ↓	おたずねの時期 ↓	(1)おつとめの状況※1						(2)おつとめ先の従業員数 (本社・支社を含む)						
		1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
		正規の職員	パート・アルバイト	派遣・嘱託・契約社員	自営業主・家族従業者・内職	無職・家事	学生	1 人	10 人	30 人	100 人	300 人	1000 人以上	官公庁
生第1 だ子 方を	a. 第1子の妊娠がわかったとき	1～6のあてはまる番号に○をつける 1～4に○をつけたときは右の欄に進む						(1)で1～4に○をつけたときだけ あてはまる番号に○をつける						
	b. 第1子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
生第2 だ子 方を	c. 第2子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
	d. 第2子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
生第3 だ子 方を	e. 第3子の妊娠がわかったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7
	f. 第3子が1歳になったとき	1	2	3	4	5	6	1	2	3	4	5	6	7

※1 産休・育児休業中の場合は就業とみなします。休業前のおつとめの状況に○をつけてください。

※ お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人目までの記入で結構です。

※ 生んだお子さんが1歳未満の場合は、「1歳になったとき」について空欄のままで結構です。

問26 一番下のお子さんを**生んだあと**と**現在までの間に**、(1)お仕事につきましたか。お仕事についた場合、(2)そのお仕事のおつとめの状況と、(3)就業した時期についてお答えください。また、(4)お仕事についた理由について、あてはまる番号すべてに○をつけ、その中で最も重要な理由には◎をつけてください。

(1)就業の有無	(3)就業時期	(4)お仕事についた理由
1. 出産前の仕事・職場に復帰した 2. 新たに仕事についた (2)おつとめの状況 1. 正規の職員 2. パート・アルバイト 3. 派遣・嘱託・契約社員 4. 自営業主・家族従業者・内職 3. その後、仕事にはついていない	一番下のお子さんが ()歳のとき ※1歳未満の場合は ()ヶ月のとき	1. 経験・技能を生かしたい 2. 居場所や人間関係を広げたい 3. 時間に余裕ができた 4. 親族や知り合いに頼まれた 5. 自分の収入を得たい 6. 子どもの教育費のため 7. 生活費のため 8. 貯蓄のため 9. その他 ()

※複数回仕事についた場合は、最初についたお仕事についてお答えください。

● ひきつづき、お子さんをお持ちの方にうかがいます。

問27 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間について、(1)ご夫婦のそれぞれのお母さまとは同居していましたか。また、同別居とは別に(2)子育ての手助けはありましたか。第1子、第2子、第3子について、それぞれあてはまる番号に1つずつ○をつけてください。

お た ず ね の ↓	あなた(妻)のお母さま								夫のお母さま							
	(1)同別居				(2)子育ての手助け				(1)同別居				(2)子育ての手助け			
	1 同居	2 同じ市区町村内で別居	3 それ以外の地域で別居	4 すでに亡くなっていた	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんぱんにあった	4 日常的にあった	1 同居	2 同じ市区町村内で別居	3 それ以外の地域で別居	4 すでに亡くなっていた	1 ほとんどなかった	2 ときどきあった	3 ひんぱんにあった	4 日常的にあった
第1子	あてはまる番号1つに○								あてはまる番号1つに○							
第2子	あてはまる番号1つに○								あてはまる番号1つに○							
第3子	あてはまる番号1つに○								あてはまる番号1つに○							

※ お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人までの記入で結構です。

問28 あなた方ご夫婦のお子さんが3歳になるまでの間、(1)おもに居住していた都道府県はどこですか。また、(2)以下の制度や施設を利用しましたか。第1子、第2子、第3子について、都道府県を回答し、あてはまる番号すべてに○をつけてください。

お た ず ね の お 子 さ ん ↓	(1) おもに居住していた都道府県 (海外の場合は国名) ※1	(2)利用した制度・施設														
		1 産前・産後休業制度	2 育児休業制度(妻)	3 育児休業制度(夫)	4 育児時間制度・短時間勤務制度(妻)	5 育児時間制度・短時間勤務制度(夫)	6 認可保育所(小規模認可保育所含む)	7 認定こども園	8 事業所内保育施設	9 その他の認可外保育施設(保育室・ベビーホテルなど)・認証保育所	10 保育ママ(家庭的保育)	11 ベビーシッター(居宅訪問型保育含む)	12 ファミリー・サポート・センター	13 一時預かり事業	14 子育て支援センター・つどいの広場など地域の親子交流や相談の場	15 どれも利用しなかった
第1子	1. 現在と同じ都道府県 2. 下記の場所 都道府県 _____	あてはまる番号すべてに○														
第2子	1. 現在と同じ都道府県 2. 下記の場所 都道府県 _____	あてはまる番号すべてに○														
第3子	1. 現在と同じ都道府県 2. 下記の場所 都道府県 _____	あてはまる番号すべてに○														

※1 おもに居住していた都道府県とは、各お子さんが3歳になるまでの間、最も長く住民登録していた都道府県(または国)です。

※ お子さんが4人以上いらっしゃる方は、3人までの記入で結構です。

● **すべての方** にかがいます。

問29 あなた方ご夫婦は、お子さんにどの程度の教育を受けさせたい（受けさせたかった）ですか。あてはまる番号に1つずつ○をつけてください。男の子または女の子がない場合も、いると仮定して、(1)男の子、(2)女の子それぞれについてお答えください。

(1) 男の子の教育 (いない方は、いると仮定して記入)		(2) 女の子の教育 (いない方は、いると仮定して記入)	
あてはまる番号1つに○		あてはまる番号1つに○	
1. 中学校	5. 大学	1. 中学校	5. 大学
2. 高校	6. 大学院	2. 高校	6. 大学院
3. 専修・専門学校(高卒後)	7. その他	3. 専修・専門学校(高卒後)	7. その他
4. 短大・高専	()	4. 短大・高専	()

● **現在の結婚以前のお子さんについて** にかがいます。

問30 あなたが現在の結婚以前に生んだお子さんはおられますか。あてはまる番号に○をつけ、おられる場合はお子さんの出生年月を記入してください。

(1) 現在の結婚以前に生んだ お子さんの数	(2) お子さんの出生年月
あてはまる番号1つに○	
0. 子どもはいない	
1. 1人	[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]
2. 2人	1人目 _____年____月出産
3. 3人	2人目 [1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]
4. 4人以上 (____)人	_____年____月出産
	3人目 [1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]
	_____年____月出産

※4人以上いらっしゃる方は、3人までの記入で結構です。

● **ご自身が 再婚の方** にかがいます。

再婚経験がない方はここで調査は終わりです。末尾のご意見の欄にお進みください。

問31 あなたの最初の結婚について、あてはまる番号に○をつけ、年月を記入してください。

(1) 最初の結婚生活を始めた年月	(2) 同居をやめたとき、または死別の年月
[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]	[1. 昭和 2. 平成 3. 西暦]
_____年____月	_____年____月

● 以上で質問は終わりです。以下は自由記述欄です（ご意見等が無ければ空欄のままでかまいません）。

結婚や出産・子育ての体験を通じて、導入して欲しい施策、あるいは充実してほしい施策があれば、下の欄に自由にご記入ください。

そのほか、本調査について、あるいは結婚、出産、子育て、少子化、人口問題などについて、ご意見などがございましたら、下の欄に自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。
ご回答いただいた調査票は回収用の封筒に入れ、ノリづけしたうえで調査員にお渡しください。
封筒は国立社会保障・人口問題研究所へ届くまで、途中で開封されることはありません。

※ 貴重なお時間をいただきましたことをこころから感謝申し上げます。本調査の結果は当研究所における統計分析を通して、国民の皆様の生活向上に役立てられることになります。なお、過去の結果については、下記に掲載しています。

出生動向基本調査ホームページ・アドレス（対象者用） <http://www.ipss.go.jp/nfs15/>

§ 調査についてのご説明

◇ 出生動向基本調査とは？

この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育てについて調べる全国標本調査で、ほぼ5年ごとに実施されてきました。今回は15回目にあたります。ご夫婦の方への調査と、独身の方への調査の2種類があります。

◇ 調査の目的

国や自治体は、さまざまな施策を実施するにあたって、住民のおかれた状況や問題を把握しておかなくてはなりません。この調査は、国民の皆さまの結婚、出産、子育ての状況を把握し、これにかかわる政策的な課題を社会科学的立場から探ることが主な目的です。とりわけ今日の日本では少子化が進行しており、これにともなう人口の減少と高齢化、そしてひとりひとりの生き方の変化が、今後の日本社会に大きな影響を与えるとの指摘がされています。この少子化の現状を把握し、原因を究明することは、本調査の大切な課題のひとつです。

◇ 調査の対象

この調査は、全国から無作為に選ばれた地域にお住まいの方々を対象としており、以下の2つのグループの方々に別々の調査票を用意しています。

〔結婚されている方への調査票〕（黄色の調査票）

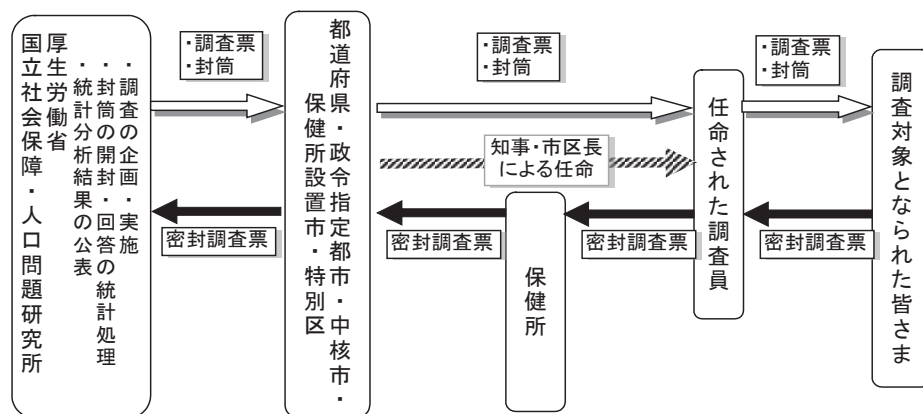
—— 届出の有無を問わず、結婚されている50歳未満の女性の方すべてが対象です。

〔独身の方への調査票〕（緑色の調査票）

—— 18歳以上50歳未満の独身の方（男性および女性）すべてが対象です。

◇ 調査のしくみ

この調査は、国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省に所属する国立の研究機関）が、統計法に基づく総務大臣の承認を受けて、国、都道府県（または政令指定都市・中核市・保健所設置市・特別区）、地域の保健所と連携して実施します。調査は、知事（市長・区長）から任命された調査員が皆さまのお宅にうかがい、調査票の配布、および回答いただいた調査票（封筒に入れて密封したもの）を回収する方法で行います。



◇ プライバシー・個人情報の保護について

この調査票上の回答はすべて統計を作成する目的だけに用いられ、それ以外の使用は「統計法」という法律で固く禁じられています。皆さまに回答いただき回収用封筒に密封された調査票は、調査員が回収した後も開封されることなく国立社会保障・人口問題研究所に届けられ、その後は厳重な管理の下に置かれます。統計を作成する過程では個人を特定する情報はすべて除外されます。したがって、個人情報が増えることは絶対にありません。

◇ その他のお問い合わせ

回答方法などについてのお問い合わせは、調査員におたずねください。また、本調査の詳細情報、これまでの調査結果、よくあるお問い合わせなどについては、インターネット上に出生動向基本調査のホームページを開設して紹介しています。そちらをご参照ください。

出生動向基本調査ホームページ・アドレス（対象者用） <http://www.ipss.go.jp/nfs15/>